



令和3年度 スポーツ庁委託事業
「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

浜松市ムーブメント事業
地域報告会・ワークショップ

事業実施報告書

令和4年2月

目 次

〈事業概要〉

1. 事業目的	2
2. 事業体制	2
3. 事業内容	2
4. スケジュール	4

〈教育推進事業〉

1. 各校における教育実践事例

● 浜松市立西小学校	6
● 浜松市立相生小学校	16
● 浜松市立萩丘小学校	26
● 浜松市立富塚小学校	33
● 浜松市立上島小学校	41
● 浜松市立城北小学校	45
● 浜松市立中ノ町小学校	55
● 浜松市立花川小学校	62
● 浜松市立入野小学校	71
● 浜松市立伊佐見小学校	82
● 浜松市立都田南小学校	84
● 浜松市立砂丘小学校	87
● 浜松市立佐鳴台小学校	91
● 浜松市立可美小学校	97
● 浜松市立雄踏小学校	106
● 浜松市立伊目小学校	118
● 浜松市立井伊谷小学校	121
● 浜松市立奥山小学校	125
● 浜松市庄内学園 浜松市立庄内小学校・庄内中学校	133
● 浜松市立都田中学校	141
● 浜松市立龜玉中学校	143

2. 地域報告会・講演会

● 市民フォーラム・パラアスリートトークショー	148
● 絵画と作文展in イオンモール浜松志都呂	150

3. 構成員および協力者・企業・団体一覧

卷末

◆本報告集は、各教育推進校による報告書他、計画書等より抜粋して掲載しております。

<事業概要>

1. 事業の目的

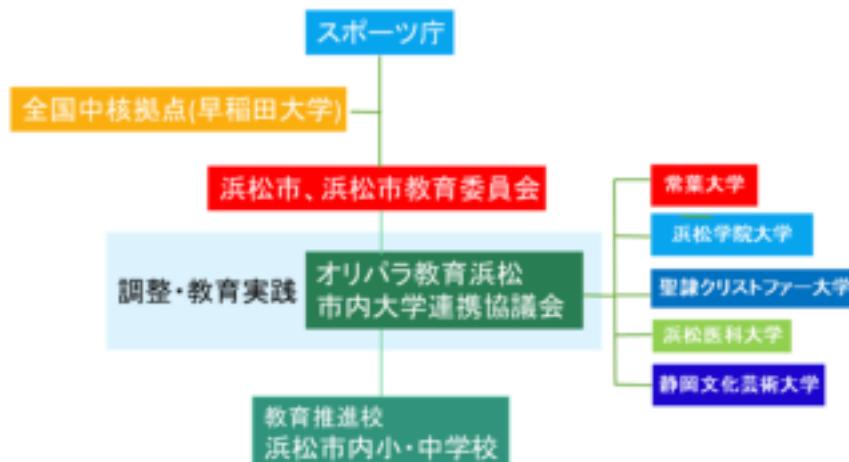
スポーツ庁および浜松市、浜松市教育委員会が推進する「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」の一環として、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会を経験できることを希少な機会と捉え、世界的なイベントを通じて、子供たちがスポーツの価値への理解を深めるとともに、「スポーツ文化都市浜松」の実現に資する関心や意欲を高める。また、ブラジルホストタウンとしてブラジルのオリンピック・パラリンピック選手との交流を通じ異文化への理解を深め、さらにはパラスポーツに触れることで、子供たちが障害者への理解を深め、将来の共生社会の担い手として活躍するための資質を育てることを目指す。さらに国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成していく。

2. 事業体制

(1) オリパラ教育浜松市内大学連携協議会

浜松市と市内各大学は、相互協力および連携のもと、双方の資源を有効に活用した協働による地域課題への取り組みや、知的・人的な交流の推進など、相互の発展と充実を目的とした協定を結んでいる。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催を機に2019年2月、常葉大学、浜松学院大学、聖隸クリストファー大学、浜松医科大学の4大学が連携して「オリパラ教育浜松市内大学連携協議会」を設置した。さらに翌年には静岡文化芸術大学が加盟し、5大学となった。当協議会参加大学の特性と特徴を生かして連携することで、浜松市内の小、中学校においてオリパラ教育活動の支援やオリパラムーブメント事業を行ってきた。



(2) 教育推進校

「オリパラ教育浜松市内大学連携協議会」によるプログラム提案に基づき、浜松市教育委員会を通じて市内の小、中学校に対して「教育推進校」を募集した。浜松市立の小学校からは19校、中学校からは3校の応募があり、すべてを「教育推進校」として指定した。

3. 事業内容

(1) 地域セミナーおよび地域報告会の開催

- ① 4月21日（水）に常葉大学浜松キャンパス大会議室において、教育推進校の教員等を対象とし、全国中核拠点の早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センタ



ーと連携した地域セミナーを開催した。そこでは、事業に関する事前説明ならびに意見交換を行い、効果的な教育実践に繋げる勉強会を行った。

- ② 1月21日（金）には、浜松市勤労会館Uホールにおいて、教育推進校および協力企業・団体を招き、地域報告会を開催した。教育推進校および協力企業・団体の活動事例報告や3か年を振り返って本協議会および全国中核拠点が総括として活動報告をした。課題としては、本事業終了後のオリパラ教育をどう継承していくか、大会レガシーをどう残すかなどがあげられた。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、教育推進校の大多数はリモートで参加した。

（2）市民フォーラム・パラアスリートトークショーの開催

浜松市内の小、中学校の児童・生徒および一般の方々にも広く参加していただく講演会を開催した。パラスポーツに関心を持っていただき、パラスポーツを通じて共生社会への実現、そして、東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーとなることを目標とした。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、会場参加者数を限定するとともにYouTubeによる配信を行った。

[開催内容] 令和3年11月13日(土) 静岡文化芸術大学講堂

「HEROS-夢を叶える原動力 パラアスリートトークショー」

[講師] パラ水泳 鈴木孝幸選手(東京2020大会 5種目すべてメダル獲得)

車いすラグビー 池崎大輔選手(東京2020大会 銅メダル)

5人制サッカー 田中章仁選手(5位入賞)

（3）教育推進校での教育実践

協議会に属する大学は、22の教育推進校を分担し、各教育推進校と協議・調整しながら、学校内のオリパラ教育を推進した。健康とスポーツ、福祉、医療、多文化共生など、各大学の専門分野や人材を生かし、地元企業や団体などの協力を得ながら、充実した教育実践活動を行った。

新型コロナウイルス感染症対策を講じての活動となつたが、聖火リレーの応援、ブラジルホストタウン事業と連携した選手団への応援(フラッグへの寄せ書きや折り鶴制作)、ブラジル選手とのリモート交流など、開催年ならではの活動も実践できた。

◆教育推進校と担当大学

担当大学	教育推進校	校数
常葉大学	萩丘小学校、都田南小学校、雄踏小学校 井伊谷小学校、庄内学園（庄内小学校・庄内中学校） 都田中学校	7
浜松学院大学	西小学校、富塚小学校、城北小学校、入野小学校 佐鳴台小学校	5
聖隸クリストファー大学	花川小学校、伊佐見小学校、伊目小学校、奥山小学校	4
浜松医科大学	上島小学校、中ノ町小学校、龜玉中学校	3
静岡文化芸術大学	相生小学校、砂丘小学校、可美小学校	3

(4) オリパラ絵画・作文展

東京2020オリンピック・パラリンピック大会のレガシー創出を目的として、小学生、中学生の絵画と作文展を開催した。令和元年～3年度までの教育推進校15校から絵画59点、作文57点の応募があった。これらの作品は、11月13日に静岡文化芸術大学で開催した市民フォーラム・パラアスリートトークショーの会場ならびに11月19日から30日の間には「イオンモール浜松志都呂」において一般市民に向けて展示した。

なお、有形のレガシーとして、全作品を収録した作品集「ともに生きよう～みんなが描いたオリンピック・パラリンピック～」を別途制作し、浜松市内小、中学校をはじめ、市内施設、関係者に配付する。

◆絵画と作文事業参加校（15校）

相生小学校、井伊谷小学校、引佐北部小学校、伊目小学校、入野小学校
奥山小学校、蒲小学校、可美小学校、佐鳴台小学校、城北小学校、庄内小学校
富塚小学校、西小学校、雄踏小学校、富塚中学校

(5) ブラジルアスリート応援事業

浜松市のブラジルホストタウン事業と連携して、ブラジルアスリートとの交流を行った。5人制サッカー、ボッチャ、車いすテニス、陸上競技、水泳、ゴールボール、パワーリフティング、シッティングバレーなどのブラジルパラ選手団に、応援フラッグへの寄せ書き、折り鶴を制作して応援のメッセージを送った。また、大会終了後、教育推進校2校において水泳および陸上のパラ選手とリモート交流会を行った。

◆応援事業参加校（13校）

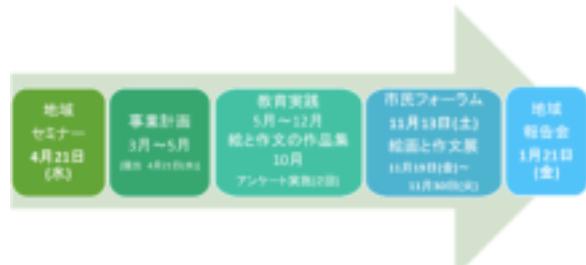
内容	教育推進校名	校数
折り鶴	西小学校、富塚小学校、城北小学校、入野小学校 砂丘小学校、佐鳴台小学校、井伊谷小学校、 奥山小学校、龜玉中学校	9
応援フラッグ (寄せ書き)	萩丘小学校、城北小学校、伊佐見小学校、都田南小学校 砂丘小学校、伊目小学校、井伊谷小学校、	7
リモート交流	富塚小学校(パラ陸上)、井伊谷小学校(パラ水泳)	2

4. スケジュール

今年度の実施期間は、浜松市との委託契約により、令和3年4月1日から令和4年2月15日までとなっていたが、新型コロナウィルス感染が8月から9月にかけて広がりを見せ、静岡県も緊急事態宣言区域に指定されたことから事業の実施に空白が生じた。

緊急事態宣言解除以降、各教育推進校が計画を立て直すことで10月以降、実践再開となった。当初11月に予定していたボッチャ大会(ボッチャ浜松カップ2021)は、新型コロナウィルス感染症拡大を考慮し、中止とした。

各教育推進校では、多くの実践活動が対面で行われ、すべての計画が修正しつつも履行できた。講演会や報告会は、ZoomやYoutubeなどを活用し、対面とオンラインの併用で行われ、新たな可能性を見出すことができた。



<教育推進事業>

1. 各校における教育実践事例

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立西小学校】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	6年生 43名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック、パラリンピックに関する知識を高め、オリ・パラ精神の内容を自らの生き方に生かそうとする態度を養う。
5 取組内容	<p>令和3年6月24日(木) 9:25~11:10</p> <p>浜松学院大学、大野木龍太郎教授を講師として招き、6年生対象に講話をしていただいた。クイズをまじえながら、児童にもわかりやすくオリンピックについての説明をしていただいた。以下はその内容である。</p> 

	<p>1 オリンピックの歴史をひもとく</p> <ul style="list-style-type: none"> ○古代オリンピックゼウスに捧げる全裸の戦い ○古代オリンピックはアテネで1896年に復活 ○近代オリンピックを生んだピエール・ド・クーベルタンが唱えたオリンピックの精神（オリンピズム）とは、「スポーツを通して心身を向上させ、文化や国籍の違いを乗り越え、平和な世界の実現に貢献すること」であり、この理想は現代にも受け継がれている。 <p>2 オリンピック開催の目的（オリンピズム）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① スポーツを通して心身を鍛え、調和のとれた若者を育てる ② 国の違いを超えて、世界中の人々が交流する ③ 交流を通して、互いを理解しあい、尊重しあう精神をはぐくむ ④ 平和な社会を築く礎になっていく <p>3 オリンピックは平和の祭典</p> <ul style="list-style-type: none"> ○五輪の5つの輪が意味するものは？ 5つの輪の色は何を指している？ <p>→五輪マークは、世界五大陸（「ヨーロッパ大陸」「アメリカ大陸」「アフリカ大陸」「アジア大陸」「オセアニア大陸」）が重なり合っている大会、世界中で連帯し繋がっている大会である、ということを表している。</p> <p>4 オリンピックのこれから</p> <ul style="list-style-type: none"> ○永遠に不滅「オリンピック神話」 ○原点に戻り、平和の祭典として見直されるべき
6 主な成果	講話を聴いた後の児童の感想として、「今まであまり興味がなかったけど、オリンピック・パラリンピックについてもっと調べて、東京オリンピックを観たい」などの言葉が聞かれた。児童の興味・関心を高めるとともに、今後のオリンピック・パラリンピック教育推進事業のよい導入とすることことができた。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	総合的な学習の時間「世界で生きる人を目指して」の一環として本講話を位置付けたため、オリンピック・パラリンピックに関する単なる知識ばかりではなく、それに携わる人々の思いや生き方にも触れた内容で講話をしていただくようお願いした。
8 主な課題等	事後学習として、講話の内容の振り返りや講師の先生へのお礼状の作成・送付などを実施したが、事前学習の時間が十分に確保できなかった。講話の前に少しでもオリンピック・パラリンピックの内容に触れる時間を計画に入れておきたい。
9 来年度以降の実施予定	来年度も6年生を対象に実施したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立西小学校】

1 実践テーマ	I · II · ③ · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	6年生・43名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	パラリンピック競技にも使用される車椅子を製造する業者の方の話を聞くことにより、共生社会に関する意識を高め、社会のために貢献しようとする心を育てる。
5 取組内容	<p>令和3年7月2日（金） 10:25～12:05</p> <p>6年生の総合的な学習の時間の単元「世界で生きる人を目指して」の中で、車椅子メーカー橋本エンジニアリングの方々を講師に招き、講話ををしていただいた。</p> <p>また、後半は実際に車椅子に乗らせていただく体験をした。</p>  <p>【講話内容】「ワクワク製造企業」</p> <p>1. 橋本エンジニアリング – どんな会社？</p> <p><4つの仕事></p> <ul style="list-style-type: none"> • 介護・福祉の仕事

	<ul style="list-style-type: none"> ・モビリティの仕事 ・車、バイクの仕事…付加価値の高い「ものづくり」 ・医療の仕事 <p><車椅子作りを始めたきっかけ・思い></p> <p>リーマンショック以降、少ない売り上げでも利益を出す仕組みづくりを考えた。景気に左右されない、浜松から世界に誇れるものづくりをめざして車椅子の製作を始めた。どこよりも軽く丈夫な車椅子作りを目指して試行錯誤し、マグネシウム合金製のものを製作している。</p> <p>2. 車椅子作り成功の秘訣</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 絶対に成功させる、という強い意志 ② 自分たちでなく周りの力を借りて協力して作り上げる ③ 成功するまでやり続ける <p>3. パラリンピックが持つ力</p> <p>【勇気】マイナスの感情に向き合い、乗り越えようとする精神力 【強い意志】困難があっても、あきらめず限界を突破しようとす る力 【インスピレーション】人の心をゆさぶり、駆り立てる力 パラリンピックの車椅子テニス、車椅子ラグビー用の車椅子を製作している。選手たちのことを考え、少しでも動きやすいものを作ろうと、妥協せずに製作に打ち込んでいる。</p> <p>4. 橋本エンジニアリング契約プロ選手</p> <p>○田中愛美選手（車椅子テニス） ○池崎大輔選手（車椅子ラグビー）</p> <p>【車椅子体験の様子】</p> 
6 主な成果	講話を聴いた後の児童の感想として「夢を追うことは、人生をつくること、という言葉を聞いて、僕も夢をもち、そこに向けてがんばりたいです」「私もみなさんのように、強い意志をもって、夢に向かっていこうと思いました」等の言葉が見られ、児童の生き方・考え方へ大きな影響を与えたと考えられる。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	講話を実施する前に、橋本エンジニアリングの方々と打ち合わせを行い、本校の総合的な学習に沿った内容、特に、パラリニピックをものづくりで支えている橋本エンジニアリングの皆さんへの思いを語っていただくようお願いをした。
8 主な課題等	本校としては、今年を含め3年連続で、6年生への講話をお願いしたが、大変すばらしい内容であるため、今後、全校もしくは複数の学年対象でお願いする方向も視野に入れたい。
9 来年度以降の実施予定	来年度の6年生、その他の学年の授業でも、総合的な学習の時間の中でぜひ実施したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立西小学校】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	6年生 43名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	パラアスリートとの交流を通して、パラリンピックやパラアスリートへの理解を深めるとともに、あきらめないこと、努力することの大切さを学ばせる。
5 取組内容	<p>令和3年11月24日(水) 13:40~14:25</p> <p>パラ陸上選手の春田純さんをお招きして、講話をしていただいた。また、後半には、グラウンドで、春田さんと一緒に50mを走る、体験活動を行った。</p>  <p>【講話内容】</p> <p>① 春田さん自身の人生について語っていただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼少時代は活発で運動が好きな子供だった。 ・中学生時に病気が発症し手術、自分で足を切断する決断をした。

- ・手術後の生活は大変苦しかったが、看護師の方々の心からの看護に救われ、感謝の気持ちを持った。
 - ・手術後10年間はコンプレックスがあり、気持ちが前向きにならなかつたが、義肢装具士の方と出会い、運動を勧められたことで、陸上競技と出会い選手として頑張ることができた。
 - ・100m選手として、アジアパラリンピックではメダルを取り、ロンドンパラリンピックに出場することができた。
 - ・今まで出会った多くの人たちに支えられ、今の自分がある。ひとりで生きているわけではない。
 - ・パラリンピックの様々な競技でもサポートしてくれる人たちに支えられている。
 - ・周りの家族や友達、先生など自分の周りの人への感謝の気持ちが大切である。
- ② 義足や春田さんの足などに実際に触れさせていただいた。



【50m走体験】

学年児童全員が、春田さんと一緒に50m走を行い、健常者、障がい者など関係なく、走ることの楽しさを実感した。



6 主な成果

講話を聞いた児童の感想に「日常の中で、もっと周りの人に後悔のないように接したり、自分のやりたいことにどんどんチャレンジしたりしていく精神を大切にしたい」「頑張っている姿はカッコいい、という話を聞いていろいろなことにチャレンジし、頑張っていく勇気が出ました」などの記述が見られ、子供たちの考え方や価値観により影響を与えていることがわかる。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	なかなか話を聞くことができない本物のパラリンピアンに講話していただく機会だったため、競技についての内容ばかりではなく、ご本人の生き方や考え方についての話ををしていただくようお願いした。
8 主な課題等	コロナ禍での活動であったため、一度決まった日程についてこちらからキャンセルをしてしまい、忙しい春田さんに御迷惑をお掛けすることとなってしまった。コロナの状況を考慮しつつ慎重な日程調整が必要である。
9 来年度以降の実施予定	大変すばらしい内容の講話であったため、日程等が合えば、ぜひ来年度以降も継続していきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立西小学校】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童・351名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名() ② 行事名() ③ その他(図書コーナーの設置)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名() ② その他()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック関連の図書コーナーを設置し、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高める。
5 取組内容	<p>令和3年6月から令和4年1月までの間、来室した児童がいつでも読めるように、図書室の一角に「オリンピック・パラリンピックコーナー」を設置した。</p>  <p>図書室にあったオリンピック・パラリンピックやスポーツに関連した本の他、協力校の浜松学院大学より、以下の図書も借用して設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの 1 夢に向かってチャレンジ！」 ・「心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの 2 助け合い、支えあって」

	<ul style="list-style-type: none"> ・「心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの 3 世界の人々とつながって」 ・「しらべよう！かんがえよう！オリンピック 1 しっているようでしらない五輪」 ・「しらべよう！かんがえよう！オリンピック 2 五輪記録の光と影」 ・「しらべよう！かんがえよう！オリンピック 4 ハイテクオリンピック」 ・「パラリンピックの楽しみ方 一ルールから知られざる歴史 までー」 ・「決定版 これがオリンピックだ オリンピズムがわかる 100 の真実」 ・参加しよう！東京パラリンピックとバリアフリー 1 パラリンピック競技を体験 — ボッチャ、ボーゴールボール など — ・参加しよう！東京パラリンピックとバリアフリー 2 パラリンピックで変わる日本 — 新しい街とユニバーサル デザイン — ・オリンピック・パラリンピッククイズ 1 オリンピック歴史編 ・オリンピック・パラリンピッククイズ 2 オリンピック競技編 ・オリンピック・パラリンピッククイズ 3 オリンピック人物編 ・オリンピック・パラリンピッククイズ 4 パラリンピック編
6 主な成果	「オリンピック・パラリンピックコーナー」に興味を持ち、 図書室に本を手に取る児童が多く見られた。
7 実践において 工夫した点 (事業の特色)	誰にでもわかるように図書室中央にコーナーを設置した。ま た、パネル2枚をコーナーの中央に配置し、視覚的に興味が持 てるようにした。
8 主な課題等	本校では、オリンピック・パラリンピック教育推進事業として、 6年生は、この図書コーナー設置の他、3つの事業を実施してい るため、オリンピック・パラリンピックへの興味関心が高まった。 東京オリンピック・パラリンピックは終了したが、来年度以降も、 他の学年でも何らかのオリンピック・パラリンピック教育を実施 し、図書コーナーへの関心を高めたい。
9 来年度以降の 実施予定	来年度もオリンピック・パラリンピックコーナーを設置して、 本事業を継続したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立相生小学校】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	【講演・体験】5年生104名 発達支援学級1名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（オリパラ講座） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・共生教育の理念のもとで、スポーツを通じたインクルーシブな社会の構築を目指す。 ・SDGsについて学ぶことで、持続可能な持続可能な開発について知る。
5 取組内容	<p>【オリパラ講座】 日時：令和3年6月30日（水）10：30～12：10 講師：常葉大学 教授 木村佐枝子氏 (1) 講演 参加者：5年生、発達支援学級児童（5年生）</p> <p>木村氏からSDGsの意味を聴いたり、実際に私たちでできることを紹介していただいたりした。児童は講演を通して「現在の環境」、「自分たちにできること」、「未来の地球に向けて」をメッセージとして受け取った。</p>   <p>(2) 体験「SDGs すごろく」講師：木村佐枝子氏 参加者：5年生、発達支援学級児童（5年生） 木村氏が作成した教材のSDGs すごろくを5人1組になって行った。ただすごろくを行うだけではなく、環境に関わるクイズにもグループや個人で取り組んだ。SDGsのことを考えるよいきっかけとなり、グループの仲も深まった。</p>

	 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ということではあったが、実際に来校してくださり、講演や体験をしてくださることで児童はすごさを感じることができた。 実際にすごろくを行うことで、児童はSDGsについて考えることができ、クイズの答え合わせなども非常に盛り上がった。 5年生においては、総合的な学習の時間の学年テーマ「将来」を深める大きなきっかけとなった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の反省を生かし、実際に講演を聴いたり、実際に体験をすることで、児童にとって実りある時間となった。昨年度は3学年が講演を聞き、体験は1学年だけであったが、今年度は1学年で講演・体験のどちらもでき、充実した。 事前に木村氏の講演や木村氏作成のすごろくを体験でき、SDGsについての理解を深めることができた。 教材を実際に使う始めの学校が本校ということだったので、非常に児童も喜んでいた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> 日程を組むことが、コロナ禍の関係で大変だった。直近の状況で変化するが、柔軟に対応することができてよかったです。 木村氏作成のすごろくはSDGsだけでなく、交通や防犯などもあるということだったので、今後活用できるとよい。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> SDGsに関しては、今後もメディアなどで取り上げられることがあるので、児童の興味や関心とも兼ねて、指導を行っていきたい。 実際に来校していただき、講演を聴いたりすごろくの体験ができたりして、非常によかった。 今後も静岡文化芸術大学と連携し、行えることがあれば検討したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立相生小学校】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	【講演・体験】6年生98名 発達支援学級1名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間、体育科） ② 行事名（オリパラ講座） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・共生教育の理念のもとで、スポーツを通じたインクルーシブな社会の構築を目指す。 ・夢に向かって工夫していくことで、諦めない心や多様な価値観を学ぶと共に自己肯定感を育てる。
5 取組内容	<p>【オリパラ講座】</p> <p>日時：令和3年7月2日（金）</p> <p>講師：ヤマハ発動機 ラグビー部 藤井達也氏</p> <p>(1) 講演</p> <p>参加者：6年生、発達支援学級児童（6年生）</p> <p>藤井さんの生い立ちや様々な職業に興味をもった体験談を聴いたり、ラグビーとの出会いやチームスポーツを行う上で大切なことを話してくださったりした。児童はスポーツを通しての「夢をもつことの大切さ」、「諦めない気持ち」、「人とのコミュニケーションの大切さ」をメッセージとして受け取った。</p>  <p>(2) 体験「ラグビー」 講師：ヤマハラグビー部の方</p> <p>参加者：6年生、発達支援学級児童（6年生）</p> <p>実際にラグビーボールを用いて、タックルやパス・キャッチの練習を実践した。チームで一列になりボール送りや円になりパスをすることを通して、相手の立場に立ってどのような声掛けをすればよいのかを考えることで、チームワークの育成につながった。</p>

	 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ということではあったが、実際に来校してくださり、講演や体験をしてくださることで児童はすごさを感じることができた。 実際のラガーマンだったということもあり、学生時代や選手時代のエピソードや夢をもつことの話をしてくださいましたことで、児童は将来について考えることができた。 ラグビ一体験では、実際のボールを扱ったり、チームの仲間とプレーすることで、相手の立場に立って考え、声掛けをしたり協力したりすることの大切さを学んだ。 6年生においては、総合的な学習の時間の学年テーマ「将来」を深める大きなきっかけとなった。
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の反省を生かし、実際に講演を聴いたり、実際に体験をすることで、児童にとって実りある時間となった。昨年度は3学年が講演を聴き、体験は1学年だけであったが、今年度は1学年で講演・体験のどちらもでき、充実した。 事前に藤井氏やラグビーの資料を紹介し、理解を深めることができた。 本校は体育科を研修の窓口にしているので、その面からもオリパラ教育について考えることができてよかったです。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も新型コロナウイルス対策もあり、体験での参加人数が限られてしまった。全員でバスやボール送りはできたが、タックルなどももっと人数が増える機会があればよかったです。 日程を組むことが、コロナ禍の関係で大変だった。直近の状況で変化するが、柔軟に対応することができてよかったです。 当初から室内の計画だったが、天候の関係にもよるが、室外での実践も見てみたかった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> 今年度行われた東京オリンピック・パラリンピック（7人制ラグビーなど）への児童の興味や関心とも兼ねて、指導を行っていきたい。 実際に来校していただき、講演を聴いたり体験ができたりして、非常によかったです。 今後も静岡文化芸術大学と連携し、行えることがあれば検討したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立相生小学校】

1 実践テーマ	I · II · <input checked="" type="checkbox"/> III · IV · <input checked="" type="checkbox"/> V
2 実施対象者 (学年・人数)	【体験】3年生96名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（体育科）</p> <p>② 行事名（　　）</p> <p>③ その他（　　）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（　　）</p> <p>② その他（　　）</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・共生教育の理念のもとで、スポーツを通じたインクルーシブな社会の構築を目指す。 ・ラグビー選手から、タグラグビーのやり方を教えていただくことで、友達と協力してゲームをすることの楽しさを味わう。身近な地域の実業団チームがあることを知り、ラグビーに関心をもつ。
5 取組内容	<p>【オリパラ講座】</p> <p>日時：令和3年11月11日（木）※1学級1時間で実施</p> <p>講師：静岡ブルーレヴズ 藤井達也氏 小池善行氏</p> <p>(1) 体験 参加者：3年生</p> <p>講師の方から、タグラグビーの特徴やルールについて、説明をしていただいた。さらに、ラグビーボールを使って長い距離のパスや高く蹴り上げるなどの手本を見せてもらった。その後、実際にタグを取り合うゲームを行ったり、フェイントで相手を抜く練習などを行った。どうするとみんなで楽しいゲームになるのかを考えながら行うことで、児童同士の他者とかかわり合う力を育むことができた。</p>  

	
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ということではあったが、実際に講師が来校してくださり、手本を見せてくださったり児童が体験したりすることでのすごさを感じることができた。 講師がラガーマンだったということもあり、ラグビーの迫力に感動したりプレーに生かそうとしたりする姿が見られた。 実際のボールを扱ったり、チームの仲間とプレーすることで、相手の立場に立って考え、声掛けをしたり協力したりすることの大切さを学んだ。 その後の体育科の時間では体験したことを生かして、ゲームに進んで取り組むことができるようになった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の体育科では、「タグラグビー」の単元があるため、年間計画を基に計画、実施が行いやすい。 直接御指導をしていただいたり、話を聴いたりしたことは、ラグビーへの関心を高めるためにとても効果的であった。 本校は体育科を研修の窓口にしているので、その面からもオリパラ教育について考えることができてよかったです。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も新型コロナウイルス対策もあり、体験での参加人数に配慮した。ラグビーというスポーツの特性を考えると、1学年ではなく1学級ごとの実施が有効であったと思う。 日程を組むことが、コロナ禍の関係で大変だった。直近の状況で変化するが、柔軟に対応することができてよかったです。 本校は当初から室外の計画だった。天候や場所の関係にもよるが、場合によっては室内の実施も考慮しないといけない。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> 今年度行われた東京オリンピック・パラリンピック（7人制ラグビーなど）への児童の興味や関心とも兼ねて、指導を行っていきたい。 有意義な学習であるため、来年度以降も他行事と検討しながら実施していきたい。 今後も静岡文化芸術大学と連携し、行えることがあれば検討したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立相生小学校】

1 実践テーマ	I · II · <input checked="" type="radio"/> III · IV · <input type="radio"/> V
2 実施対象者 (学年・人数)	【講演・体験】4年生95名 発達支援学級2名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間、体育科） ② 行事名（オリパラ講座） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・共生教育の理念のもとで、スポーツを通じたインクルーシブな社会の構築を目指す。 ・講話を聴き選手との交流を通して、生き方や競技に取り組む姿勢を知り、自分の生活をよりよくする。 ・パラリンピック種目のボッチャの体験を通して、障がい者スポーツに対する理解を深めるとともにパラリンピックへの関心を高める。
5 取組内容	<p>【オリパラ講座】</p> <p>日時：令和3年12月17日（金）</p> <p>講師：浜松市ボッチャ俱楽部COOL 北澤和寿氏</p> <p>(1) 講話 参加者：4年生、発達支援学級児童（4年生） 北澤さんの生い立ちや様々な分岐点があって今があることを知り、ボッチャとの出会いやスポーツを行う上で大切なことを話してくださった。児童は講話を通して「諦めない気持ち」や「前向きにチャレンジする姿」をメッセージとして受け取った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div> <p>(2) 体験「ボッチャ」 参加者：4年生、発達支援学級児童（4年生） ボッチャについてのルールを説明してくださり、手本を見せ</p>

	<p>てくださいました。児童はグループに分かれ、実際にボッチャを体験した。グループの友達と「どこに投げるとよいか」や「どうすればチームとして勝つうなのか」を考え、作戦を工夫しながらよりボッチャを楽しむことができた。</p> 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ということではあったが、実際に来校してくださり、講演や体験をしてくださることで児童はすごさを感じることができた。 障がいがあっても目標に向かって前向きに取り組んでいる北澤さんの姿は、児童にとってとてもよい刺激になった。 実際にボッチャを体験することで、正確なコントロールや戦略の大切さを知った児童は、北澤さんに尊敬の気持ちをもち、障がいへの見方を変わってきたようだった。 ボッチャが障がいの有無に関わらず誰にでもできるスポーツであることを知り、運動が苦手な児童でも楽しんで取り組むことができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の反省を生かし、実際に講演を聴いたり体験したりすることで、児童にとって実りある時間となった。 事前に北澤氏やボッチャの資料を紹介し、理解を深めることができた。実際にボッチャ選手として活躍している方に講師を依頼したことで、児童の意欲が高まった。 本校は体育科を研修の窓口にしているので、その面からもオリパラ教育について考えることができてよかったです。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も新型コロナウイルスの対策に配慮し、オリパラ体験を行った。講話は学年一斉に聴けたが、体験はより多くの人に十分な時間でしてほしかったので、学年を半分にして行った。 日程を組むことが、コロナ禍の関係で大変だった。直近の状況で変化するが、柔軟に対応することができてよかったです。 当初から室内の計画だったので、事前に講師の方に来校していただき体育館の広さを確認してもらったり、担当学年の教員に資料を分け場所の配置などを確認したりした。

9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none">・今年度行われた東京オリンピック・パラリンピックへの児童の興味や関心とも兼ねて、指導を行っていきたい。・福祉教育とパラリンピック教育は相互に関連があるので、このような講話や体験によって、児童が双方を考えるよい機会としてみたい。・来年度以降も4年生の福祉教育と関連付けて、継続的に実施していくと考える。・今後も静岡文化芸術大学と連携し、行えることがあれば検討したい。
--------------	---

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立相生小学校】

1 実践テーマ	I · II · <input checked="" type="radio"/> III · IV · <input type="radio"/> V
2 実施対象者 (学年・人数)	1~6年 全校児童
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名() ② 行事名() ③ その他(図書室での本や資料の展示)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名() ② その他()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック及びスポーツ全般への関心を高める。
5 取組内容	(1) オリパラの図書は、図書室に特設の展示コーナーを設置した。 (2) オリパラのパネルを校舎内に展示した。
6 主な成果	図書やパネルによりオリンピック・パラリンピック及びスポーツ全般への関心の高まりにつながった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	図書室に特設コーナーを設置することで、大会本番の夏休み前後には、本を手に取って読んだりする子が数多くいた。 オリンピックアスリートのメダル獲得に関する図書は、各競技に興味を抱かせることにつながった。 また、パネルは児童たちの目に付きやすい箇所に展示し、興味がわきやすいように工夫した。足を止めてパネルを見ている児童が見受けられた。
8 主な課題等	本の紹介や周知に力を入れて、関連図書への興味をもたせるとよいと感じた。
9 来年度以降の実施予定	オリンピック・パラリンピックのレガシー創出の一つとして、図書室にある関連図書を児童に紹介していくようにしたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立萩丘小学校】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	学校の実施：対象学年・4, 5, 6年生 計 346人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>著名なスポーツ選手、アスリートによる講話</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ゆめ講座） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる。
5 取組内容	<p>■実施日時：令和3年6月24日 9:25～10:10</p> <p>春田純さんの講演は、子供たちに、どのような状況にあっても、これに適応したり、置かれている状況を自分で打ち破ったりしながら、社会の中で自分の能力を発揮できるように努力する姿勢を伝えてくれました。</p> <p>静岡県清水市の出身の春田さんが、15歳の時、骨肉腫により左膝から下を切断した際の苦悩と決断を語ってくれました。その後、なにも前向きに活動できない、障がい者であることのコンプレックスなどから抜け出すことができたのは、25歳の時、義肢装具士の沖野敦郎（おきの あつお）氏と出会い、陸上（障がい者スポーツ）選手としての可能性を示唆されたおかげだということ。そして、陸上競技への挑戦を決意し、「アジアパラリンピック競技大会」出場、100m日本記録（11秒95）をマーク、「ロンドンパラリンピック競技大会」出場と輝かしい活躍したことを話してくれました。</p> <p>また、幼児期や小学生時代の写真や病床での写真、ロンドンパラリンピックの映像などを交えて、熱く語ってくれました。</p> <p>一人では何もできない、みんなのサポートが必要であることや両親や周りの人たちが生きて頑張る姿を応援していることの価値を子供たちに話してくれました。</p>



6 主な成果

子供たちの感想から
・足を切るか切らないかの決断を15歳なのに自分自身で決断したことがすごいと思いました。両親もとても苦しいだろうし、義足になることはつらいことなのに、最後まであきらめずにパラリンピックの舞台に立っている姿に感動しました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちよりすごい人生を経験していく、辛い思いなどをしていく、とても尊敬します。義足でも皆同じ、みんな平等の世界になってほしいと思いました。差別をするような人にはなりたくないと思いました。 ・義足でもスポーツができるることを知って、日本の記録を取ったことはすごいと思った。障がいは確かに少し不便かもしれないけれど、不幸ではないと思った。 ・これからも障がいがあっても好きなことはたくさんできるということをみんなに伝えてほしいと思いました。 ・一番心に残った言葉は、「障がい者は、かわいそうじゃない」という言葉です。自分は、今まで障がい者がいたときに、かわいそうという目で見てしまっていたからです。だけどこれからは、障がい者がいて困っていたら助けてあげたいです。 ・春田さんの話を聞いて、わたしは、友達や家族にたくさんのサポートをされていることを知りました。なので、優しい気持ちを忘れずに、友達や家族、仲間を大切にしたいです。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松市オリンピック・パラリンピック教育推進事業の地域セミナーにおいて、春田純さんと直接話すことができたのが大変良かった。講演内容や考え方を事前に確認できたことで、学校側の目標や話す内容を丁寧に打合せすることができた。 ・次の時間に 4 年生のみの体験活動を設定したこと、より具体的な内容と結び付けて、活動を広げることができた。
8 主な課題等	コロナ感染症対策として、4 年生以上の学年を対象とした。
9 来年度以降の実施予定	春田氏は、とても魅力的で話に引き込まれる。小学生向けに丁寧にお話をしていただいている印象で、今後も講演及び体験活動の講師としてお招きしたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立萩丘小学校】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	学校の実施：対象学年・4年生 計128人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>著名なスポーツ選手、アスリートによる体験、質疑応答</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（UD講座） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる。
5 取組内容	<p>■実施日時：令和3年6月24日 10:20～11:05</p> <p>春田純さんの講演に引き続き、4年生のみUD（ユニバーサルデザイン）講座を行いました。</p> <p>通常生活用の義足と陸上競技用の義足を実際に触らせていただきました。子供たちは、思ったよりも重い義足をもち、様々な感想を口にしていました。また、春田さんの切断した足を実際に触らせていただきました。感染症対策のため消毒しながら子供たちは、とても大切なものを触るようにそっと春田さんの足に触っていました。</p> <p>その後、実際に走る姿を見た後、各学級の代表者が、春田さんと競争をしました。体育館という限られた距離ではあったが、春田さんの速さを実際に走った子も横から見ている子も実感しました。</p> <p>質疑応答では、子供たちの素直な疑問に、春田さんは丁寧に答えてくれました。常に優しい言動が、子供たちにとって心に残るものとなりました。</p>

	   
6 主な成果	<p>子供たちの感想から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・義足の人が足の代わりに持つ機械のようなものも何十種類もあるなんて驚きました。実際に持つてみると思ったよりも重かったです。 ・子供のころから運動が好きだったのに急にできなくなるのは、悲しいと思います。一緒に走らせてもらって春田さんは速かったです。 ・陸上競技用の義足は、重いと思っていたのにとても軽くてびっくりしました。 ・はじめは、かかとのある義足をはいていたのに今は、かかとのないものをはいてびっくりしました。走ってくれた時に、足がなくてもスポーツ用の義足をはけば、ちゃんと走れるから走ってくれた時は、すごく速くてびっくりしました。 ・義足というものをあまり知らなかったので、すごく速く走っているところを見てかっこいいと思いました。私は、春田さんのようにになりたいです。 ・代表者が、春田さんと走っているところを見ていました。義足でも、春田さんが誰よりも速かったです。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松市オリンピック・パラリンピック教育推進事業の地域セミナーにおいて、春田純さんと直接話をすことができたのが大変良かった。講演内容や考え方を事前に確認できたことで、学校側の目標や話す内容を丁寧に打合せすることができた。 ・講演の後に4年生のみの体験活動を設定したことで、より具体的な内容と結び付けて、活動を広げることができた。
8 主な課題等	コロナ感染症対策として、春田さんはマスク着用し、子供が足を触るときは、消毒をした。
9 来年度以降の実施予定	春田氏は、とても魅力的で話に引き込まれる。小学生向けに丁寧にお話をしていただいている印象で、今後も講演及び体験活動の講師としてお招きしたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立萩丘小学校】

1 実践テーマ	I · II · <input checked="" type="radio"/> III · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	4年児童 128人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	パラリンピック競技にも使用されている車椅子を製造する業者の方の話を聞くことにより、共生社会に関する意識を高め、社会のために貢献しようとする心を育てる。
5 取組内容	<p>■実施日時：令和3年7月15日 10:20～12:00</p> <p>橋本エンジニアリング株式会社は、浜松で車椅子を製造する企業です。初めに会社の方からUDについての話を聞き、思いやりがUDにとても大切な部分であることを教わりました。</p> <p>浜松市内の会社が積極的に福祉関係に関わっていることや軽量の車椅子を製作することの難しさ、必要性について知ることができました。</p> <p>軽量車椅子に実際に座って操作する体験から、さらに福祉について考えを深めることができました。パラスポーツの紹介もしていただき、パラリンピックへの関心を高めることができました。</p>  

	 
6 主な成果	<p>子供たちの感想から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子は、世界最軽量の6.2kgと聞いてとてもびっくりしました。浜松の技術を使って仲間と協力していることはいいことだと思いました。 ・一番驚いたのは、車椅子がマグネシウム製で、アルミや鉄の重さの半分よりも軽くてびっくりしました。軽いから車にも乗せられて、暮らしが便利になってすごいなと思いました。パラリンピックで、車椅子を使った競技を見たいです。 ・「心のUD」の大切さを学びました。私はデザインがUDだと思っていたけれど、UDへの理解、相手への気持ちもUDなのだと思います。 ・実際に車椅子に乗ってみると、意外と難しかったです。車椅子で曲がる時が特に難しかったです。
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<p>地元企業である会社の方に話を来ていただくことは、地域に対する理解を深めるために重要だと感じた。また、福祉について総合的な学習の時間で学習を深めている4年生の共通体験の一つとして本講演を取り上げたことは、今後の学習につながると考えた。</p> <p>実際に車椅子に乗ってみることで、車椅子利用者の気持ちや苦労について実感することができた。</p>
8 主な課題等	特になし
9 来年度以降の実施予定	<p>来年度以降も、4年生が総合的な学習の時間に福祉をテーマに学習を進める予定である。</p> <p>今回と同じような体験をさせたい。</p>

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立富塚小学校】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	小学4年生・86名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	総合的な学習の時間では、「ともに生きよう」をテーマに1年間を通して学習している。年間を通して、車椅子、点字、白杖等の体験をして、UDについて各自で学習テーマを絞り、調べ活動をしていく。その共通体験の一つとして本事業を取り入れ、車椅子についての理解をさらに深める。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和3年6月24日（木）10：05～11：45 ・講師：橋本エンジニアリング株式会社 ・講演内容 　　会社の方より <ul style="list-style-type: none"> ① 車椅子を作るようになった理由 ② 車椅子を使う人のニーズに合うように制作する努力 ③ テニス選手のスポンサーとして車椅子を開発していく過程 等の話を聞く。 また、実際に車椅子テニスの競技に使用されるものに試乗体験させていただく。
6 主な成果	<p>会社の方より、車椅子を作るようになった理由や、車椅子を使う人のニーズに合うように制作する努力、その過程などについて話を聞き、福祉に対する理解が深まった。また、地元の会社がパラリンピックの車椅子を開発したり、積極的に福祉に関わったりしていることを聞き、児童は地元を誇りに思い、福祉への関心を高めることができた。</p> <p>また、実際に軽量車椅子に座り、操作する体験をすることで、進んで様々な人と関わったり、すべての人に平等に接したりする</p>

	<p>ことの大切さに気付くことができた。</p> <p>さらに、本事業実施前より児童のオリンピック・パラリンピックへの関心が高まった。</p> 
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	地元にこんなにすばらしい会社があることが分かり、オリンピック・パラリンピックの前に実施できたことで、児童の福祉への関心をより高めることができた。また、浜松の自動車産業が盛んなこととも関係付けて講演を聞くことができた。
8 主な課題等	特になし
9 来年度以降の実施予定	来年度も4年生は総合的な学習の時間で「福祉」をテーマに学習を進める予定である。そのため、来年度も是非、今回のような機会を設け、児童にこのような貴重な体験をさせたいと考える。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立富塚小学校】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	小学6年生・95名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（体育） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	現役陸上選手から直接指導を受けることで、技術の向上と記録のアップを図る。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日時 令和3年10月7日（木）9：05～ 9：50 10：00～10：45 8日（金）9：05～ 9：50 ・講師 TOMO RUN ・内容 6年生 体育科「走り高跳び」 学級ごとに準備運動をした後、走り高跳びの技術的なアドバイスをしていただいた。  <p>図を基に、高跳びをする際の体の動きを説明していただいた。体のどの部分を使うかなどについて理解してから取り組んだ。</p>

	 <p>踏み切るときには、つま先、かかと、全体のどの部分を使うかについて、実際にジャンプしながら確かめた。</p>
	 <p>関節を使って、うまくジャンプするこつを教わり、練習をした。</p>
6 主な成果	日頃の体育科の学習をより専門性の高い現役陸上選手から教えていただくことにより、どの子もスキルアップにつなげることができた。特に、個々の高跳びにおける技術的なアドバイスが的確で、児童が変化を実感することができ、意欲が高まった。また、教員の体育科の指導にも役立った。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	計画では陸上部の活動として実践していただく予定であったが、緊急事態宣言発令中のため陸上部の活動自体が自粛となつた。そのため、急遽計画を変更し、6年生の体育科「走り高跳び」の学習として実践するという対応をしていただいた。
8 主な課題等	特になし
9 来年度以降の実施予定	来年度、陸上部の活動が行われるのであれば、本来の計画のように実施したい。

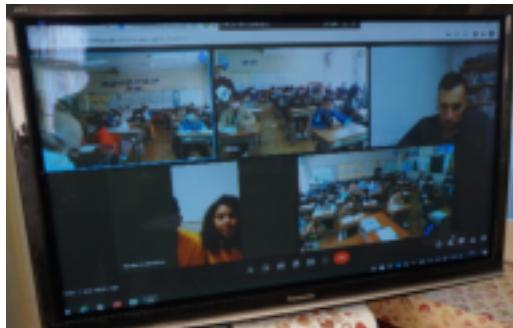
令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立富塚小学校】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	小学4年生・86名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	ブラジルパラリンピック陸上選手とブラジルからリモート交流することによって、スポーツやパラリンピックについて親しんだり、共生社会について理解したりすることができる。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和3年12月9日（木） 9:05～9:50 ・講師：ブラジルパラアスリート 陸上競技 KETYLA PAULA PEREIRA TEODORO 選手 KESLEY JOSUE PEREIRA TEODORO 選手 ・交流内容 ④ 挨拶 ⑤ 選手の自己紹介 ⑥ 質問タイム  <p>各クラスからリモートでつなぐ。 通訳の方を通して交流する。</p>

	
6 主な成果	<p>リアルタイムでブラジルとつながったことに児童はとても驚き、歓声が上がった。ポルトガル語で挨拶したり、ブラジル人通訳の方がポルトガル語で話をしてくださったりしたため、ブラジルのことやパラリンピックに関心を持つことができた。また、パラスポーツや選手自身の生活について児童が質問し、それに対して選手の方が熱心に答えてくださったことにより、パラリンピックに関心をもち、共生社会に対する理解が深まった。</p> <p>本事業実施前より児童のオリンピック・パラリンピックへの関心が高まった。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	事前に大学の方とともに打ち合わせを行い、念入りにリモートの準備をしたため、順調に交流をすることができた。リアルタイムでつながることのよさを十分に感じることができた。
8 主な課題等	特になし
9 来年度以降の実施予定	来年度も4年生は総合的な学習の時間で「福祉」をテーマに学習を進める予定である。そのため、来年度も是非、今回のような機会を設け、児童にこのような貴重な体験をさせたいと考える。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立富塚小学校】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	小学6年生・96名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	パラリンピック陸上選手から生き方の話を聞くことで、共生社会について理解したり自分の生き方を考えたりすることができる。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和3年12月17日（金）14：00～15：00 ・講師：春田 純 様 ・講演内容：オリンピック・パラリンピックについて 生き方について  <p>御自身の小中学校時代のことや病気のこと、経験等について実際に義足でお話しいただいた。また、出場されたオリンピックのことや、パラリンピックの陸上競技のこと等、スライドを使って紹介してくださった。</p>

6 主な成果	<p>パラアスリートの方からパラリンピックやオリンピアンになるための努力等について聞いたり、パラリンピックの陸上競技のことを深く教えていただいたことで、オリンピック・パラリンピックへの関心が高まった。また、春田さんの生き方について聞くことで、児童が自分自身の生き方について考えることができた。</p> <p>本事業実施前より児童のオリンピック・パラリンピックへの関心が高まった。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	特になし
8 主な課題等	<p>連絡調整がうまくいかず、前日になって時間が変更になった。雨天だったため、運動場での活動が中止になってしまい残念であった。</p>
9 来年度以降の実施予定	児童にとって、実際に義足の選手から話を聞くことは大変貴重であるため、機会があれば実施したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立上島小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	第4学年 4学級 約140名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	児童は車いすやパラリンピック競技に関する講話を聴いたり、車いすに乗る体験をしたりして、福祉に対する興味や関心を高めることができる。
5 取組内容	<p>【日 時】 令和3年7月8日(木) 5, 6校時(13:20~15:00)</p> <p>【講 師】 (株)橋本エンジニアリング 代表取締役社長 橋本 裕司 氏 管理部係長 藤田美美代 氏 介護福祉部 佐藤 優樹 氏</p> <p>【実施内容】</p> <p>① 会社概要、車いすに関する説明</p>  <p>② 車いすの試乗体験</p> 

6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> 実際に車いすに乗り、操作する体験を通して、製作者の工夫や意図を感じることができた。 車いす製作の過程を知ることで、日常的に車いすに乗って生活する人の立場に立って、思いやりの気持ちを持つことの大切さに気付くことができた。 競技で使用する車いすと日常生活で使用するものに様々な違いがあることを知り、パラスポーツへの興味や関心を高めることができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	地元浜松で御活躍されている企業の方の講話を聴くことで、身近なところで UD に関する活動をしている人々の存在を知り、興味を持つことができた。
8 主な課題等	車いすの台数が限られるため、試乗体験の際に児童の待ち時間ができてしまった。時間を有効活用する方法を考えたい。
9 来年度以降の実施予定	講師を招いて専門的な内容を含めた講話をしていただきたり、普段は触れる機会のない競技用の車いすに試乗をさせていただいたりして、児童たちにとって貴重な経験となった。今後も総合的な学習の時間の活動の一環として、福祉に関する理解を深めるために実施していきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立上島小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	第6学年 5学級 約150名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> 児童はオリンピック、パラリンピック、プロスポーツ等に対する興味や関心を高めることができる。 児童はスポーツ選手の生活や生き方について知り、将来の自分の姿に見通しをもつことができる。
5 取組内容	<p>【日 時】 令和3年11月15日（月）5, 6校時（13:20～15:00）</p> <p>【講 師】 (株) TOMORUN 中川智博代表 鈴木義啓監督</p> <p>【実施内容】</p> <p>① アスリート、代表取締役による講話、実技披露</p>  <p>② 走り方の実技指導</p> 

6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> 講師が陸上選手になるまでの経緯を聞き、自身の目指す職業に就くまでの過程について考え、イメージを持つことができた。 児童たちが意欲的に運動に取り組むことができた。また、陸上競技に興味を持った児童が多くいた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	地元浜松で活動している企業、アスリートの方の講話を聞くことで、身近なところで活躍している人々の存在を知り、スポーツに対する関心を高めることができた。
8 主な課題等	6年生の全児童が同時に活動したため、十分な時間やスペースを確保することができなかった。2チームに分けて実施したり、実施回数を増やしたりするために、他の行事や活動との兼ね合いを踏まえて調整していく必要がある。
9 来年度以降の実施予定	運動に関する専門的な内容を指導していただいたり、普段接することのできないアスリートからの講話を聴いたりして、児童たちにとって貴重な経験となった。今後も総合的な学習の時間や、陸上部の講師という形でお招きし、活動を実施していくきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立城北小学校】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年・3クラス・83人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>①イベント名（ ） ②その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○ボッチャ選手との交流を通して、生き方や競技に取り組む姿勢を知り、自分の生活に生かす。</p> <p>○パラリンピック種目ボッチャの体験を通して、障がい者スポーツに対する理解を深めるとともに、パラリンピックへの興味・関心を高める。</p>
5 取組内容	<p>日時：令和3年10月6日（水）9:25～12:10 講師：北澤 和寿 氏</p> <p>1 北澤さんのお話</p> <p>① 自己紹介とボッチャの説明</p> <p>2 体験活動</p> <p>（1）ボッチャ体験 （2）北澤さんに挑戦</p> <p>3 感想発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャをやるのは2回目だけど、3年生の時よりもチームで作戦を立ててできたと思う。みんなで協力してできたのでよかった。 ・北澤さんは身体に障がいがあっても、目標をもってボッチャに取り組んでいて、すごいなあと思った。私も目標に向かって、根気強くがんばりたい。 ・4年生と北澤さんと対決したとき、北澤さんがすごくコントロールがよくて、すごいと思った。うまくなるようにたくさん練習したと言っていたので、続けて取り組むことが大切だと思った。

	<ul style="list-style-type: none"> とても楽しかったので、今度は学年でチーム戦をやってみたい。 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちにとっては、昨年度に引き続きのボッチャ体験であったが、本年度は東京パラリンピックが行われたこと、実際にボッチャ選手と一緒に体験できることで、意欲的に取り組むことができた。特に、北澤さんは身体に障がいがあっても、目標をもってボッチャに取り組んでいる。どんな困難に直面しても、前向きにチャレンジする姿は、子供たちに良い刺激となった。 ボッチャ体験を通して、自然に助け合い励まし合う姿が見られた。ミニゲームの際には、よいプレーが出ると自然に拍手がわき、楽しく活動することができた。 ボッチャは、障がいの有無、年齢等に関係なく簡単に楽しむことができるスポーツである。運動が苦手な子供も楽しんで取り組むことができた。しかも、作戦を工夫することでより競技を楽しむことができる。総合的な学習の時間で学んでいく「福祉」の考え方につながると感じた。 「もっとやりたい。」「クラス対抗でやったらどうか。」などの感想が聞かれ、ボッチャ競技に対する興味・関心が高まった。学級・学年づくりにも生かしていきたい。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> 講師の北澤さんが、担任向けに事前説明をしてくださったことで、見通しをもって活動することができた。 実際にボッチャ選手として活躍している方に講師を依頼したことで、活動の意欲付けが図れた。 クラスごとに時間を分けて実施したので、体験活動が充実し子供たちの満足感につながった。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で当初の計画を延期することになったが、実施できてよかったです。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> 福祉教育とパラリンピック体験は、相互に関連がある。学習を通して、子供自身が福祉のあり方やパラリンピックのねらいについて考える機会としていきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立城北小学校】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年・3クラス・83人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○車いす体験を通して、障がいのある人やお年寄りの立場に立つて考え、行動しようとすることができる。</p> <p>○パラリンピック競技用車いすを知り、障がい者スポーツに対する理解を高めるとともに、パラリンピックへの興味・関心を高める。</p>
5 取組内容	<p>日時：令和3年11月2日（水）9:25～11:15 講師：橋本エンジニアリング株式会社</p> <p>1 橋本エンジニアリングさんのお話</p> <p>（1）身近なユニバーサルデザイン （2）車いすの種類（一般用・競技用車いす） （3）パラリンピック競技で活躍している選手の紹介</p> <p>2 体験活動</p> <p>（1）車いすの扱い （2）車いす体験</p> <p>3 感想発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインは、障がいのあるなしに関係なく、みんなが暮らしやすくするために考えられたものと分かった。身近なユニバーサルデザインについても気付かされた。 ・橋本エンジニアリングさんのお話に「乗る喜びを極める」という言葉があった。車いすを利用する方の立場に立って、車いすを作っているところがすてきだと思った。 ・学校の車いすに比べ、軽くて動かしやすいので、驚いた。それに、かっこいいデザインだった。車いすのイメージが変わった。 ・車いすにはいろいろな種類があることが分かった。競技用の

	<p>車いすにはブレーキがなかったり、タイヤの大きさが違ったりしていることを初めて知った。車いすラグビーの池崎選手が使っている車いすは、橋本エンジニアリングさんで作っていると聞いてびっくりした。</p> 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本エンジニアリングさんのお話からは、ユニバーサルデザインについての説明だけでなく、夢に向かって目標をもって取り組む生き方教育につながるお話もあり、キャリア教育にもつながると感じた。 ・けがで松葉杖の子供がいたので、車いすの利便性を実感したようだ。また、様々な種類の車いすを見ることができ「障がい」に対する見方も変わってきたようだ。 ・一般の車いすだけでなく競技用車いすを体験したこと、東京パラリンピック車いすラグビーで銅メダルを獲得した池崎選手が使用しているということで、パラリンピック種目が身近に感じられたようだ。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすを製作している地元企業の方に講師をお願いした。コロナ禍だったので、予防対策についても連絡・調整し、実践できた。 ・子供たちが効果的に車いす体験をできるように、昨年度よりも車いすの台数を増やしたり、活動方法を工夫したりしてくださったので、待ち時間が短く、体験時間をしっかりと確保することができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は、体育館で車いす体験を行ったが、校舎内や屋外で体験することで車いすに乗る人の不便さや補助する役割の必要性を学ぶ機会があってもよいと感じた。 ・車いすを使ったパラリンピック種目の選手を招聘しての講話や交流も実施してみたい。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も総合的な学習の時間「福祉」をテーマに学習を進める予定である。本活動は、体験を通じた学びができるだけでなく、パラリンピックへの理解につながるので、継続して取り組みたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立城北小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	2年・3クラス・82人 3年・3クラス・75人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（体育科） ② 行事名（） ③ その他（） (2) 地域における活動 ① イベント名（） ② その他（）
4 目標 (ねらい)	パラリンピック種目ボッチャの体験を通して、障がい者スポーツに対する理解を高めるとともに、パラリンピックへの興味・関心を高める。
5 取組内容	曜日：令和3年11月15日（月）9:25～12:10 第2学年 令和3年12月8日（水） 9:25～11:15 第3学年 講師：浜松学院短大 准教授 松澤俊行 氏 1 松澤先生のお話 (1) ボッチャの説明 2 体験活動 (1) 準備運動 (2) ボッチャ体験 3 感想発表 • テレビでボッチャ競技を見たことはあるが、思い通りのところにボールを投げるのは難しかった。チームで対戦して、2位になったので、うれしかった。 • 最後までどちらが勝つかわからないので、最後まで盛り上がった。もっとやりたかった。 • 点数を数えるとき、短大生の人が一緒に数えてくれたので、よかったです。 • ボッチャは、小さい子から大人まで楽しめる競技だとわかった。今度、学年のクラス対抗戦でやってみたいと思った。 • ボッチャ以外のパラリンピック競技への関心も高まった。

	
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> パラリンピックのボッチャ競技で、杉村選手が金メダルを獲得したこともあり、ボッチャ競技の認知度は昨年度よりも高まっていた。しかし、2年生は初体験の子供が多かったので、興味関心をもって取り組むことができた。体験を通してすぐにルールを覚え、グループの対抗戦で盛り上がった。ゲームを繰り返すことで、「どこに投げるとよいのか」「どうすれば得点が上がるか」などグループの仲間と作戦を立てながら取り組む姿が見られた。 ボッチャ体験を通して、自然に助け合い励まし合う姿が見られた。運動が苦手な子供が活躍して脚光をあびる場面もあり、互いを認め合う機会ともなった。学級づくりにも役立つ競技だと感じた。 ルールも簡単で、年齢にかかわらず手軽に楽しめるボッチャ競技を通して、パラスポーツの意義や楽しさを実感する機会となった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ということもあり、各学年クラス単位で実施した。その結果、講師からも直接丁寧な指導をしていただくことができた。また、公式用から幼児用まで様々な種類のボールに触れる機会があり、違いも含めて楽しむことができた。 講師の松澤先生が、どのように説明すると児童にわかりやすいかをその都度検討してくださったこと、一目で勝負がわかる手作りの用具を準備してくださったことで、昨年度よりもより分かりやすく楽しめる活動になった。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちがタグラグビーに対する興味関心を高めつつあるので、必要な用具の購入を検討していきたい。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> 学院短大は近隣にあるので、今後もボッチャの体験活動を通して交流していきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立城北小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	3年・3クラス・75人 4年・3クラス・83人 6年・2クラス・70人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（体育科） ② 行事名（） ③ その他（） (2) 地域における活動 ① イベント名（） ② その他（）
4 目標 (ねらい)	○タグラグビーのルールを知り、基本的なボール操作やボールを持たない時の動きによって、簡単なゲームを楽しむことができる。 ○チームで声を掛け合い、協力して活動することができる。 ○ラグビーについて知り、オリンピックへの興味・関心を高める。
5 取組内容	日時：令和3年11月24日（水）9:25～12:10 第4学年 令和3年11月25日（木）9:25～11:15 第6学年 令和3年11月26日（金）9:25～12:10 第3学年 講師：静岡ブルーレヴズ（元ヤマハ発動機ジュビロ） 1 静岡ブルーレヴズ（元ヤマハ発動機ジュビロ）さんのお話 (1) タグラグビーのルールなどの説明 2 体験活動 (1) タグ遊び（タグを使ったしっぽ取りなど） (2) 相手をかわして走ったり、友達にパスを回しながら攻めたりする動きの練習 (3) 試合形式のタグラグビー ※学年の発達段階に応じて、練習方法や時間を工夫して取り組む。 3 感想発表 ・講師の先生が、タグラグビーについてわかりやすく教えてくれたので、楽しく活動できた。 ・タグラグビーを初めてやったけど、相手チームのタグが取れてくれしかった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・タグラグビーは、みんなで協力しないと得点が取れない。チームワークが大切な競技だと分かった。 ・講師の先生から「タグラグビーは、安全で、みんなで楽しめるスポーツです。チームで協力し、互いに支え合いながら楽しむことが大切です。」というお話を聞いた。一人だけうまくてもだめだし、自分勝手なプレーをしても勝てない。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」というラグビーのメッセージが繋がっていると感じた。 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・タグラグビーを初めて経験する子供が多かったが、楕円形のボールの扱いやそのルールについて、わかりやすく教えていただき、興味や関心を高めることができた。今後の体育科の学習にもつなげていきたい。 ・「全員にボールが渡りやすい」「全員に得点のチャンスがある」「運動量が豊富である」「チームでめあてや作戦を立ててゲームができやすい」「敏捷性やバランス感覚を養うことができる」など、体育科の学習にタグラグビーを取り入れる良さを感じた。 ・作戦や役割を考えることで、より楽しさが深まることが実感でき、意欲が高まった。また、みんなで協力して目標を目指すことの大切さも実感することができた。 ・「One For All, All For One（一人はみんなのために、みんなは一人のために）」という言葉と共に、「ノーサイド（試合終了後は敵味方なし）」というラグビーの精神は、オリンピックのフェアプレー精神にもつながるもので、子供たちに身に付けさせたい態度である。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ということもあり、各学年クラス単位で実施した。その結果、講師からも直接丁寧な指導をしていただくことができた。また、体験の際にも運動量が確保され、充実した活動につながった。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちがタグラグビーに対する興味関心を高めつつあるので、必要な用具の購入を検討していきたい。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡ブルーレヴズ（元ヤマハ発動機ジュビロ）さんは、隣市のチームであるので、今後も講師として招聘することで、タグラグビーの学習を充実させていきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立城北小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	1年・2クラス・61人 3年・3クラス・76人 5年・2クラス・71人 2年・3クラス・82人 4年・3クラス・83人 6年・2クラス・70人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ①教科名 () ②行事名 () ③その他 (読書活動) (2) 地域における活動 ①イベント名 () ②その他 ()
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックの歴史やスポーツ関連の本、日本文化の魅力を実感する本や各国を知るための本などを通して、読書の幅を広げる。
5 取組内容	○オリンピック・パラリンピック関連の図書を図書館に配架し 自由に読むことができるようとする。 
6 主な成果	・読書を通して、オリンピック・パラリンピックについての興味関心を高めることができた。また、選手の伝記から、夢に向かって努力することの大切さを学んだ。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピック・パラリンピック関連の図書の中から、幅広いジャンルを選書した。 • 年間を通して、オリパラコーナーを設置し、関連図書や新聞記事等を展示した。 • 年度ごとに冊数を増やして頂いたことで、多くの子供が本を手に取る機会が増えた。 • 本を参考にして、東京オリンピック・パラリンピック関連の新聞記事をスクラップし、テーマごとにまとめる活動を行った。オリンピック・パラリンピックの意義や日本選手の頑張り等について思いを深めることができた。  
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピックやパラリンピック選手の伝記をもとに、道徳の教材開発ができるとよい。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 幅広い読書経験をしてほしいので、継続した取組を希望したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立中ノ町小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	4学年児童 48名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	パラスポーツの1つであるブラインドサッカーの体験を通して、パラスポーツは個性を尊重し、様々な人がスポーツを楽しむことができるものであることを知り、パラスポーツを親しんだり、他者の気持ちを考えて行動することの大切さに気付いたりすることができる。
5 取組内容	<p>講師：常葉大学 神力亮太 助教 日時：令和3年10月21日（木）9:20～11:10 (1)パラスポーツ・パラリンピックについての講話 パラスポーツやパラリンピックについて、映像を交えながら講話を聞いた。パラスポーツは個性を尊重し、それぞれが楽しむことができるスポーツであることを学んだ。</p>   <p>(2)ブラインドサッカーの体験 パラスポーツの1つであるブラインドサッカーの体験をした。アイマスクをして運動することの難しさに気付き、他者に対する思いやりの心をもってサポートしてあげることの大切さを学んだ。</p>

	 
6 主な成果	普段、なかなか体験することができないパラスポーツに触れることで、実感を伴った気付きになった。様々な人がスポーツを楽しむことができるようにするために、いろいろな手段や方法があることを学ぶことができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	総合的な学習の時間と関連させて進めたことで、内容把握や理解に役立った。
8 主な課題等	本事業を行う際に、単発で行うのではなく他の学習との関連を考えて進めていくと、より理解が深まると思われる。
9 来年度以降の実施予定	教育課程との関連をもたせながら、来年度以降も実施していくたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立中ノ町小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	5年生児童 55名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	持続的な開発目標（SDGs）の達成に向けて、スポーツという観点から多くの実践方法があることに気付き、自分たちにできることを考えることができる。
5 取組内容	<p>講師：常葉大学 木村佐枝子 教授 学生ボランティア 2名</p> <p>日時：令和3年11月12日（金）9:20～11:10</p> <p>(1)スポーツSDGsすごろくの体験</p> <p>「スポーツ SDGsすごろく」の体験をした。進んだマスに書かれた内容のクイズを解いた。楽しみながら SDGs やオリンピック・パラリンピックに関する知識を深めることができた。</p>  <p>(2)スポーツSDGsについての講話</p> <p>すごろくの内容についての解説を含めて、スポーツ SDGsについての講話を聞いた。SDGs の達成に向けて自分たちにできることや、SDGs とスポーツとの関わりについて考えるきっかけになった。</p>

	
6 主な成果	SDGsとスポーツ、SDGsとオリンピック・パラリンピックとのつながりについて学ぶことができた。SDGsがいろいろな方面と関連があり、自分たちにできることがたくさんあるということに気付くことができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	総合的な学習の時間の出前講座として、環境教育に関連した内容になるように講話をお願ひし、内容把握や理解に役立った。
8 主な課題等	総合的な学習の時間の中でSDGsについて事前に学習をしていたため、より理解を深めることができた。単発で行うよりも、他の学習との関連を持たせるとよい。
9 来年度以降の実施予定	教育課程との関連をもたせながら、来年度以降も実施していくたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立中ノ町小学校】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	6学年児童 68名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○運動に携わる仕事に就いている方の生き方や考え方につけることを通して、子供たちの夢と希望を育むとともに自分自身の生き方について考え、よりよく生きようとする意欲を高める。</p> <p>○パラリンピック競技に使用される車椅子を製造する業者の方の話を聞くことで、共生社会に関する意識を高める。</p>
5 取組内容	<p>講師：橋本エンジニアリング株式会社 日時：令和3年12月9日（木）13：40～15：20</p> <p>(1) 講話</p> <p>① 車椅子をつくるようになった理由 ② 選手のニーズに合うように製造する努力</p>   <p>(2) 体験活動</p> <p>① 車椅子の扱い ② 車椅子の試乗体験</p>

	 
6 主な成果	<p>○業者の方から講話を聞き、会社の概要やパラリンピック競技についての理解を深めることができた。また、地元の会社が積極的に福祉に関わっていることや、車椅子テニス選手のスポンサーとなり選手のニーズに応えられるよう車椅子を改良していく努力を知ることができた。さらに、キャリア教育の一環として、競技用車椅子を製造することで選手を支え、スポーツに関わる仕事があるということを知ることができた。</p> <p>○実際に競技用車椅子に座って操作する体験から、福祉についての考えを深めることができた。</p>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	総合的な学習の時間の体験活動として、講師の方にはパラリンピック競技に携わる人としての生き方や考え方についての講話をしてもらった。
8 主な課題等	今年度は6年生への講話や体験活動をお願いしたが、内容を工夫し、複数学年を対象とすることも検討したい。
9 来年度以降の実施予定	教育課程との関連をもたせながら、来年度以降も実施していくたい。

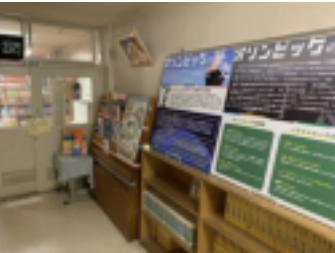
令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立中ノ町小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	1~6年児童 全校児童 351名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (図書室での本や資料の展示)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 () ② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピック及びスポーツ全般への関心を高める。
5 取組内容	<p>(1) 図書室に特設の展示コーナーを設置した。</p> <p>(2) 4年生以上の学級に、一定期間図書を回覧した。</p> 
6 主な成果	○図書やパネルを図書室入口に設置したり回覧したりすることで、オリンピック・パラリンピック及びスポーツ全般への関心が高まった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	図書室の入口に紹介のパネルと本を設置したため、足を止めてパネルを見たり、本を手に取って読んだりする子がいた。
8 主な課題等	校内の貸出システムに登録されていない本だったため、図書室での閲覧のみに限定されてしまった。気軽に借りることができる環境を整える必要があった。また、本の紹介や周知に力を入れて、関連図書への興味をもたらせるとよいと感じた。
9 来年度以降の実施予定	オリンピック・パラリンピックの実施に合わせて、図書室にある関連図書を児童に紹介していくようにしたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立花川小学校】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動の楽しさわくわく」講座①（卓球） <ul style="list-style-type: none"> : 3・4・5・6年生 25名 ・「運動の楽しさわくわく」講座②（軽スポーツ） <ul style="list-style-type: none"> : 全学年 41名 ・「持久走わくわく」講座 <ul style="list-style-type: none"> : 全学年 41名 ・浜松視覚特別支援学校様との交流（ゴールボール・ボッチャ） <ul style="list-style-type: none"> : 5・6年生 13名 ・「リズムに乗って踊りを楽しもう」講座 <ul style="list-style-type: none"> : 3・4・5・6年生 25名 ・「運動の楽しさわくわく」講座③（タグラグビー） <ul style="list-style-type: none"> : 3・4・5・6年生 25名 ・オリンピック・パラリンピック関連図書・展示コーナー開設 <ul style="list-style-type: none"> : 全学年 41名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名（体育科・道徳科） ② 行事名（） ③ その他（） <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名（） ② その他（）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック・パラリンピックに関連する競技の練習を通して、陸上競技の体の動かし方を学ぶとともに、生涯を通じてスポーツや体を動かすことに親しむことのできる児童の育成に努める。 ○ゴールボール・ボッチャ等の競技を体験することを通して、障がい者理解を深めるとともに、共生社会を目指して多様性を尊重する心を育む。 ○著名なスポーツ選手やその関係者の方から、競技への思いや夢に向かって進むことについての講話を聞き、見識を広めるとともに、自分の生き方について考える力を育成する。

5 取組内容	<p>1 「運動の楽しさわくわく」講座① (3・4・5・6年生児童22名参加) 様々な生き方や考え方につれて、自分のこれから生き方に生かすことを目的として、水谷万記子様（オリンピック卓球金メダリスト水谷隼選手の母）を講師としてお招きし、講演会を実施した。</p> <p>(1)事前打ち合わせ メールで日程調整を行った。また、本校での活動の意図を伝え、指導内容の確認を行った。</p> <p>(2)実践 実施日：令和3年7月15日(木) 14:00～14:45 • 水谷隼選手の競技に向かう姿勢や小学校時代のエピソード、夢に向かって進む子供たちに向けてのお話を聞くことができた。夢を叶えるために必要な継続力や感謝の気持ちを持つ重要性について学ぶことができた。 • 卓球の競技体験を通して、卓球の楽しさを知ることができた。 • オリンピック、パラリンピックのシンボルについてのお話を聞き、大会への関心が高まった。</p>      <p>(3)事後学習 • 体験した感想を発表し合った。 • 振り返りシートに感じたことや考えたことを記入した。</p> <p>2 「運動の楽しさわくわく」講座②（軽スポーツ） (1～6年生児童41名参加) 生涯を通じてスポーツや体を動かすことに親しむことできる児童の育成に努めることを目的として、常葉大学吉田早織ゼミ生9名を講師としてお招きし、「アジリティ能力（敏捷性）を高める」ことを目的とした運動あそび（しっぽ取りや鬼ごっこなど数種類の運動）の体験講座を実施した。</p>
--------	---

(1)事前打ち合わせ

メールで日程調整を行った。また、本校での活動の意図を伝え、指導内容の確認を行った。

(2)実践

実施日: 令和3年10月26日(火) 10:40~12:20

- ・しつぽ取りや鬼ごっこなどの軽スポーツ体験を通して、体を動かすことの楽しさに触ることができた。
- ・体の動かし方や力加減のコントロールが必要となる遊びを行うことを通して、加減速したり、素早く方向転換したりすることの大切さを体感することができた。



(3)事後学習

体験した感想を発表し合った。

3 「持久走わくわく」講座

(1~6年生児童41名参加)

持久走の楽しさを知るとともに、練習に役に立つ体の動かし方を学ぶことを目的として、「持久走わくわく」講座を実施した。講師として、(株)杏林堂薬局 酒井英彰様、前川優月様をお招きした。

酒井英彰様経歴

- ・ランニングクラブ「スマイリーエンジェル」コーチ
- ・浜松シティマラソン・島田大井川マラソンなどの県内大会のペースメーカーとして活躍

前川優月様経歴

- ・2021年静岡県選手権800m・1500m優勝
- ・2021年東海選手権800m優勝
- ・2020年日本選手権出場

(1)事前打ち合わせ

メールで日程調整を行った。また、本校での活動の意図を伝え、指導内容の確認を行った。

(2)事前学習

- ・持久走カードを配布し、12月に行われる校内持久走記録会に向けて、各学級で意欲付けを行った。
- ・校内持久走記録会の1か月前に、実際に走る距離で試走を行い、タイムを測定した。測定タイムを元に、自分の目標を立て、その目標を達成するために、具体的にどのような練習を行うかを考える機会を設けた。

(3)実践

実施日：令和3年11月16日(火) 9:50～11:25

- ・長距離走に取り組む前の準備体操について指導していただいた。(全身の部位を意識してほぐしていく。)
- ・20m程度の距離を、様々な体の動かし方で走り、長距離走を走る際に意識すると良い体の動かし方を学んだ。



(4)事後学習

体験した感想を発表し合った。

4 浜松視覚特別支援学校とパラスポーツ交流

(5・6年生児童13名、視覚特別支援学校児童3名参加)

パラスポーツでの交流を通して、互いの良さや違いを認め合い、共生社会を目指して多様性を尊重する心を育むことを目的

として、浜松視覚特別支援学校児童とパラスポーツ（ゴールボール・ボッチャ）の交流会を行った。

(1)事前打ち合わせ

4月に交流協議会を設け、各校の担任同士で日程調整や交流内容の話し合いを行った。その後、メールで最終調整を行った。

(2)実践

実施日：令和3年11月17日(水)

- ・パラスポーツを体験することを通して、競技の楽しさを感じたり、競技についての知識を広めたりすることができた。
- ・パラスポーツを体験することを通して、目の見えない人の気持ちや接し方について理解を深めることができた。



(3)事後学習

体験した感想を発表し合った。

5 「リズムに乗って踊りを楽しもう」講座

(3・4・5・6年生25名参加)

楽しく踊るコツを学び、リズムに乗って踊る楽しさを味わうことができる児童を育むことを目的として、「リズムに乗って踊りを楽しもう」講座を実施した。講師として、浜松でヒップホップダンスを指導されているRisa様と川村李奈様をお招きした。

(1)事前打ち合わせ

メールで日程調整を行った。また、本校での活動の意図を伝え、指導内容の確認を行った。

(2)実践

実施日：令和3年12月2日(木) 14:00～16:00

- ・2～3種類のヒップホップの基本的なステップを学ぶことができた。
- ・リズムに合わせて体を動かすことを通して、ダンスの楽しさを感じることができた。



(3)事後学習

体験した感想を発表し合った。

6 「運動の楽しさわくわく」講座③（タグラグビー）

（3・4・5・6年生児童25名参加）

生涯を通じてスポーツや体を動かすことに親しむことできる児童の育成に努めることを目的として、「運動の楽しさわくわく」講座を実施した。講師として、静岡ブルーレヴズより藤井達也様と加藤圭太様をお招きした。（2人ともヤマハ発動機ジュビロOB）

(1)事前打ち合わせ

メールで日程調整を行った。また、本校での活動の意図を伝え、指導内容の確認を行った。

(2)実践

実施日：令和3年12月7日(火) 10:40～12:20

- ・競技体験を通して、タグラグビーの楽しさを知ることができた。
- ・ラグビーで大切にされている5つのこと（品位・情熱・結束・規律・尊重）についてのお話を聞くことを通して、自分のこれまでの生活を振り返ったり、これから生き方について考えたりするきっかけとすることができた。





(3)事後学習

体験した感想を発表し合った。

7 オリンピック・パラリンピック関連図書・展示コーナー開設

- ・オリンピック・パラリンピックについてのパネルを、協議会から貸与していただいた。パネルは、子供たちの目に付きやすい児童昇降口に展示した。
- ・協議会より提示された貸与図書リストの中から、貸与したい図書を選んで申請し、貸与していただいた。
- ・オリンピック・パラリンピックに関する図書を調べ、購入したい図書のリストを作成し、協議会へ申請した。
- ・本校から提出したリストを元に、協議会に図書を購入していただき、貸与していただいた。
- ・図書室の受付の隣に、オリンピック・パラリンピック関連図書貸出コーナーを設けて、子供たちへの貸し出しを行った。



8 ブラジルウィーク「ブラジルのことを知ろう！！」動画視聴 (5・6年生児童13名を対象に実施)

- ・2020年オリンピック・パラリンピックで、浜松市がブラジル共和国のホストタウンとして、ブラジル選手団の事前合宿を受け入れることに関連し、浜松市市民スポーツ振興課様の作成した「ブラジル選手団からのメッセージや競技紹介の動画」を視聴した。
- ・動画視聴を通して、ブラジル共和国の国や文化について知ることができた。
- ・オリンピック、パラリンピックの競技を知ることを通して、大会への関心を高めることができた。

6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> 実際に競技を体験することで、競技の面白さや魅力に気付くことができた。 様々な運動を体験する中で、体を動かす楽しさを感じることができた。（持久走記録会に向けて意欲的に練習する子供の姿が見られた。） ゴールボールやボッチャなどのパラスポーツ体験では、年齢や性別だけでなく、障害の有無を越えて誰でも楽しむことができるスポーツがあることを学ぶことができた。 「他の競技についても学んでみたい」「知らない人にも教えてあげたい」等、学習意欲を高めることができた。 図書室にオリンピック・パラリンピック関連図書の貸出コーナーを設けたことで、多くの子供たちが書籍を通じてオリンピックやパラリンピックについての知識を深めることができた。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校であることのメリットを生かし、時間や学年団を分けて計画することで、コロナ禍においても講師を招聘して、多くの児童に競技を体験する機会を設けることができた。また、子供たち一人一人に十分な運動量を確保することができた。 今年度は、オリンピック・パラリンピック教育推進事業の講座の予定を、学校行事や体育科の授業に合わせて年度当初から年間計画の中に盛り込んだ。そのため、昨年度よりも、スムーズに日程調整をすることができた。 校内行事や体育科の学習内容との関連を考えて、事前学習の中で児童への短距離走や持久走の運動に目標を持たせ、意識付けを行った。事前に目標を持ったことで、実際に選手から教えていただく際に目的意識を持って意欲的に運動に取り組むことができた。 オリンピック・パラリンピック関連図書を、図書室の目立つところに置き、誰でも気軽に借りられるようにした。その結果、多くの子供たちが本を借り、オリンピック・パラリンピックへの理解を深めることができた。
8 主な課題等	<p>今年度もコロナウイルス感染防止のために、様々な変更を余儀なくされた。予定していた短距離講座やボール投げ講座は中止することになった。実施する講座についても、手指・用具の消毒、運動内容の変更・調整などの対応を行った。学校の状況によって対応がまちまちであったため、他の推進校の取り組みを参考にしたり、情報交換・共有を行ったりすることが難しかった。他校との連携をもっと円滑に行うことができれば、制限のある中での活動においても、もっと有効な活動を行うことができたと思う。したがって、情報共有については、今後も課題であると考える。</p> <p>今年度、本校はオリ・パラ推進校となって3年目となる。今年度は、昨年度に上手くいった取組をベースにして、行事や教</p>

	科と連動させながらオリンピック・パラリンピック教育を計画的に行うことができた。推進校ではない多くの学校のためにも、推進校のノウハウや情報を共有し、今後の道筋を築くことが大切であると考える。
⑨ 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な方を講師としてお招きしてお話を聞いたり、交流したりする機会を設けることで、子供たちの視野を広げたい。 ・本校は静岡県立浜松視覚特別支援学校と長年にわたって交流活動を行っている。今年度は交流活動の中で、5・6年生がゴールボールとボッチャを体験した。次年度も今年度の取組みを元にパラスポーツを通した交流活動を検討したい。こうした活動を通して、障がい者理解を深めるとともに、他者を尊重する共生の心を一層育んでいきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】
学校名【 浜松市立入野小学校 】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生 65名、 なかよし学級の4年生 6名（知的障害）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ④ イベント名（ ） ⑤ その他（ ）
4 目標 (ねらい)	パラリンピック種目ボッチャに取り組む選手との交流や、ボッチャ競技の体験を通して、選手の思いや競技に取り組む姿勢を知ったり、障害者スポーツに対する理解を深めたりするとともに、共生社会に関する意識を高め、社会のために貢献しようとする心を育てる。
5 取組内容	実施日時 令和3年 5月31日（金） 3、4校時 講 師 浜松ボッチャ俱楽部COOL 北澤和寿さん (1) ボッチャの競技の仕方・デモンストレーション (2) ボッチャ体験（4年生全員） (3) ボッチャ対決！！（北澤さん vs 代表児童） (4) 北澤さんとボッチャとの出会いについてのお話 (5) 北澤さんとの交流（質問タイムなど）
	  <p>障害に負けずにボッチャに取り組んでいる北澤さんをお招きし、どんなに困難なことがあっても前向きにチャレンジする姿や思いに触れる。</p> <p>また、実際にボッチャを体験し、障害があっても楽しめる競技としての工夫、パラリンピック競技への関心を高める。</p>
6 主な成果	電動車いすに乗っている北澤さんや、北澤さんを支える御両親に出会ったことそのものが、子供たちの心に響いた。

	  <p>直後の感想には、次のような内容があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャってとっても楽しい、好きになった。 ・北澤さんのプレーを見て、かっこいいと思った。 ・家で、お父さんやお母さんにも教えたい。 ・事故にあわれたことは、大変だったと思うけれど、自分のやりたいスポーツを見つけてやっているって、すごい。 ・思いがあれば、やりたいことは、実現できると話を聞いて分かった。 <p>このような感想は、テレビやインターネットを通じては、得られない貴重なものだと感じる。その後の学校生活の中で、「やりたいこと」に向かって粘り強く活動する姿が見られた。</p> <p>また、夏休みのオリンピック・パラリンピック絵画・作文の募集には、4年生児童からの応募が多く寄せられたことから、オリンピック・パラリンピックへの関心の高まりを感じた。</p> 
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>本校の4年生には、<u>消極的で、自己肯定感が低い子、困難に出会ったときに、立ち向かっていく子</u>という気持ちが弱い子が多いという実態がある。</p> <p>そこで、本事業を通して、北澤さんの前向きな姿勢や、<u>体格や運動能力に左右されないボッチャ</u>という競技の特性から、ありのままの自分を受け入れ、「前向きにチャレンジすること」の価値を感じほしいと願った。</p> <p>そのため、事前に北澤さんに入野小に来ていただき、担任をはじめ複数の教員でボッチャの体験をしながら、当日の進め方、児童に伝えていただきたいことを打ち合わせました。</p> <p>その上で、「<u>できること</u>」に目を向け、前向きにチャレンジすることの大切さについて伝えていただきたいとお願いをした。</p> <p>また、本取り組みについては、本校ブログ（6月5日掲載）にも紹介し、保護者や地域の方にも伝えるようにした。 https://weblog.city.hamamatsu-szo.ed.jp/irino-e/2021/06/01657/</p>
8 主な課題等	<p>競技の体験には、ある程度の広さが必要となる。他の教育活動や他学年との兼ね合いなど、体育館を使用することのできる時間に限りがあるため、時間と場所の確保が課題と感じる。</p> <p>また、今年度は、学年全員一斉に、1回だけの交流だったが、学級単位で、複数回の機会をもった方が、より北澤さんとの交流が深ると感じる。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>今回北澤さんから4年生に伝えていただいたメッセージを生かし、本校児童に、<u>困難に出会っても立ち向かっていく心の強さ</u>を育みたい。北澤さんとの御縁を大切にし、次年度もお招きしたい。体格や運動能力に左右されずに行えるボッチャという競技は、だれでも参加しやすいという特性があるので、それを生かした取り組みを行いたい。</p>

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立入野小学校】

1 実践テーマ	I · II · <input checked="" type="radio"/> III · IV · <input type="radio"/> V
2 実施対象者 (学年・人数)	6年生 86名、 なかよし学級の6年生 3名（知的障害）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	世の中には、障害のある人を始め、多様な人々が生活していること、それを支える人々の思いを知り、共生社会や多様性への意識を高める。 また、自分で限界を決めず、果敢に挑戦すること、互いに支え合うよさを感じて、これから自分の生き方を考えることができる。
5 取組内容	<p>6年生は、1年間を通して、総合的な学習の時間に「生き方を見つめる」をテーマに学んでいる。そのため、様々な人の生き方に触れさせ、自分自身を見つめ直すきっかけとするため、時期を変えて、次のような3回の講演を実施した。</p> <p>(1)「自分で限界を決めない！～自分のよさや可能性を信じて～」 講師 伊藤裕子さん（デ カルフィットス LEN・ペンギン村水泳教室） https://weblog.city.hamamatsu-szo.ed.jp/irino-e/2021/07/01714/</p> <p>日時 令和3年 7月 8日（木）3、4校時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペンギン村水泳教室の誕生秘話 ・パラスポーツに挑戦している人々の思い ・不思議なゲーム（思いこみが可能性を低くする） ・質問タイム <p>自分たちの住む入野地区には、 障害のある人もない人も、ともに 過ごすことができるスポーツ施設 LENがあることを知り、運営を されている伊藤さんの講話を聞く。 その中で自分のよさや可能性を 信じる大切さを伝えていただく。</p> 

(2)「成功するまでやり続ける！！～強い意志、力を借りる～」

講師 橋本エンジニアリング 大城さん、藤田さん

<https://weblog.city.hamamatsu-szo.ed.jp/irino-e/2021/11/01943/>

日時 令和3年11月25日(木) 3、4校時

☆橋本エンジニアリングのTV取材動画視聴（事前）

- ・軽量車いす開発コンセプト紹介 “乗る喜びを極める”
- ・成功の秘訣について（ワークショップ含む）
- ・軽量車いす試乗（全員）
- ・質問タイム

地元浜松の車椅子メーカー「橋本エンジニアリング」の方を講師としてお招きし、車いすづくりに懸ける“乗る喜びを極める”という思いに触れたり、手掛けたことを成功させるための秘訣について話を伺ったりする。また、実際に制作された車椅子に乗る体験活動を行い、そこに秘められた工夫や思いをより実感できるようにする。



(3)「だれかと一緒になら、できることはいっぱいある！」

講師 春田純さん（義足のスプリンター ロンドンパラリンピック出場）

<https://weblog.city.hamamatsu-szo.ed.jp/irino-e/2021/12/01985/>

日時 令和3年12月17日(金) 3、4校時

① 春田さんによる講話

- ・なぜ義足になったか（15歳で骨肉腫に切断を決断する）
- ・支えてくれた人の存在の大きさ
- ・コンプレックスとの戦いは、10年に及んだ

② 春田さんとのふれ合い

- ・義足に触れる、切断した足に触れる
- ・競技用義足をつけた春田さんと一緒に走る
- ・質問タイム

ロンドンパラリンピックに出場経験があり、義足のスプリンターとして、日本人初の11秒台の記録に挑戦した春田純さんをお招きして、お話をうかがう。その中で、義足や切断した足に触れさせていただいたり、ともに走ったりしながら、「自分の可能性を見い出し、周りの人とともにチャレンジしよう」というメッセージを伝えさせていただく。



6 主な成果

(1) 伊藤さん（ペンギン村水泳教室・LEN）講演

「自分で限界を決めない！～自分のよさや可能性を信じて～」

パラアスリートが、“ないことを悲しむのではなく、あるを生かして大きな夢をもっている”こと、そしてひたむきに努力する姿を映像を交えて紹介は、子供たちの心をぐっと掴んだ。

また、ゲームを通して、“思いこみ”的力について実感をした。

これらを通して、

- 自分には、「可能性がある」
- 自分には、「価値がある。」
- 自分の夢は、「叶う」

という伊藤さんの強いメッセージを感じることができた。そして、子供たちは、自分で自分の限界を決めず、あるものを生かし、夢や目標を達成することの素晴らしさと、自分もそうでありたいという思いをもった。



(2) 橋本エンジニアリング 大城さん、藤田さん講演

「成功するまでやり続ける！！～強い意志、力を借りる～」

苦境に立たされたとき、社員みんなで力を合わせ、開発チームを結成。チームのメンバーがそれぞれ得意なことを生かし、軽量車いすの開発を始めたこと。開発コンセプトは“軽くて、安くて、かっこいい”

“乗る喜びを極める”で、その実現のため、多く他企業の協力があつたことなどを聞いた。



子供たちは、大きなことを成し遂げるために、自分だけでは難しいことも「周りの人と協力する」・「力を借りる」大切さに気付いた。

また、成功の秘訣は、強い意志をもって、“成功するまでやり続ける”ことであると気付いた。

最後の質問タイムでは、聞きたいことが止まらなかった。

(3) 春田さん（義足のスプリンター）講演

目の前にいる春田さんご自身から聞く話は、子供たちの心に大きく響いた。特に義足をつけることになったいきさつや、そのとき「生きていてもつまらない。疲れてしまった。死のうと思ったこともあった。」という本音、そこから脱することができたのは、背中を押し、支えてくれる人がいたからであったことなど。

義足を外し、ありのままの姿を見せていただいたこと、その足に全員が触れていたこと、一緒に走ったことは、貴重な体験となつた。



	<p>以下、春田さんからのメッセージと子供たちの感想の抜粋。</p> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> <p>春田さんからのメッセージ</p> <p>これから困難に出会っても、1人で乗り越えられそうにないことがあっても、だれかと一緒にやってみたらいい。きっとできることがいっぱいある。もし、失敗したら、またやればいい。次の別のことをやればいい。自分にできることをやったらしい。そして、・・・自分を支えてくる人に感謝の気持ちをもって、大切にしよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;"> <p>わたしは 春田さんのお話を聞いて 友達や家族、仲間の大切さを改めて感じました。春田さんは病気になら、當時、友達や家族が支えてくれたから乗り越えられたんだよって思いました。春田さんはこの時から、友達などを今まで以上に大切にし、仲間意識のアハコトと思いまして。西脇さんはだけしゃべりました。周りの人やすべてが、おしゃるたくさんの人達。お情けなさ、ついで生きて7年3ヶ月で鬼調子を落すのに生活をしてこうと気付きました。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;"> <p>みんなお話を体験させられた中で、心に残ったのが「家族や友達がいたから乗り越えられた」心を強くもつつか大事などの話です。私も6年生になって、委員会などで「大変でつらいこともありました。けれど、家族や友達が相手に来てくださいましたからこそ何をかわいいことを乗り越え、前よりも強くなれた気がします。</p> </div>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>どの講話においても、事前に綿密な打ち合わせをして、子供たちの実態、伝えていただきたいメッセージの内容の確認を行った。</p> <p>伊藤さんとの打ち合わせは、6年担任とともに LEN を訪問した。伊藤さんのあゆみを聞き、子供たちの実態、担任の思いを伝えながら、講演の内容の大筋を決め、その後はメールを通して、複数回の打ち合わせを行い、「<u>自分を受け入れ、よさを見つけること、自己肯定感を高めること</u>」の大切さについてお話ををお願いした。</p> <p>橋本エンジニアリングさんは、会社の概要の TV 取材動画を事前に提供していただき、電話にて体験の内容やワークショップの準備の確認をした。そして、「<u>目的・目標を達成するために、大切なことは何か</u>」伝えていただきたいとお願いした。</p> <p>春田さんには、電話やメールを通して、すでに実施済みだった伊藤さん、橋本エンジニアリングさんの講演内容を事前にお伝えした。そして、子供たちの実態、担任の思いを伝えるとともに、当日の進め方について数回の打ち合わせを行った。その上で、「<u>どんな状況とっても、それを受け入れる環境や柔軟な心があれば、前に向かって進む力が生み出される</u>」ということを伝えていただくようお願いをした。</p> <p>また、この3つの取り組みについては、本校ブログにて、その都度紹介し、保護者や地域の方などに幅広く伝えた。</p>
8 主な課題等	<p>伊藤さんの講話は、密を避けるために体育館を使用した。もう少し伊藤さんとの距離が近くなるような空間でやりたかった。また、伊藤さんの運営する LEN に実際に足を運びたかった。</p> <p>橋本エンジニアリングさんの講話は、開発プロジェクト体験のような形で複数回行っても、効果的だと感じた。</p> <p>春田さんの講話では、競技用義足をつけた春田さんと子供たちが対決する体験を予定していたが、当日の明け方まで雨が降り、運動場を使用することができなかった。そのため体育館内での活動となり、思いきり走ることができなかった。春田さんも子供たちも互いに残念そうであった。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>小学校最終学年の6年生にとっては、どの講話も、これから先の生き方を考える上で、非常に貴重な示唆をいただくものとなった。</p> <p>自己肯定感を育むこと、多様性を認め合い、周囲と助け合いながら、やりたいことを見つけて実現に向かうことの大切さに気付くことができた。来年度の6年生にも、同様の講話や体験の機会を作りたい。</p>

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立入野小学校】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	3年生 86名、 なかよし学級の3年生 6名(知的障害)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名(体育科) ② 行事名() ③ その他()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名() ② その他()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック種目を体験したり、アスリートの講話を聴いたりすることを通して、スポーツに対する興味・関心の向上を図る。
5 取組内容	<p>実施日時 令和3年11月18日(木) 2、3、4校時 11月19日(金) 2、3、4校時</p> <p>講 師 静岡ブルーレブズラグビークラブ 藤井達也さん、加藤圭太さん</p> <p>【1日目】タグラグビーの基礎を学び、簡単な体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タグラグビーの特徴、基本の動き、パスの心得 <p>【2日目】タグラグビーの簡易ゲーム体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本の動きやパスの心得を生かしたゲーム形式体験 ・藤井さんからのメッセージ  <p>静岡ブルーレブズラグビークラブの方を講師としてお招きし、2日間にわたり、学級単位でタグラグビーについての説明を聞いたり、実際の動きを見せてもらったりする。 また、どうすると勝てるのかということだけでなく、どうすると互いに楽しくゲームをすることができるかなど、<u>スポーツを楽しむための心構え</u>などについて考える機会とする。</p>

6 主な成果	<p>【1日目】“思いやりのパス”の大切さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タグラグビーの特徴、タグの付け方、簡単なルール、基本の動きを知ることができた。 ・パスをするときに意識する大切なことは“思いやりのパス”であることを知った。思いやりのパスとは、 -パスを出す側・・・相手が取りやすいうようにパスをする。 -パスを受ける側・・受ける気持ちがあるよとアピールする。 <p>“思いやりのパス”を意識することで、コミュニケーションをとることにつながり、チームワークが向上してトライが成功しやすくなる。</p> <p>【2日目】トライの成功のためには、互いに関わり合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目に学んだ基本の動きを生かし、「タグラグビー」という競技の楽しさを味わいながらゲームができた。 ・休憩時間に自然と丸くなり作戦を話し合う姿が見られ、友達と関わり合いながら、目標を達成するよさを味わった。  <div style="border: 1px dashed #0070C0; padding: 5px; background-color: #E0F2FD;"> <p>藤井さんからのメッセージ</p> <p>タグラグビーは、安全でみんなで楽しめるスポーツ。 独りよがりのプレーをするのではなく、チームワークよく、互いに支え合いながら楽しむことが大切。</p> </div> <p>子供たちは、2日間のタグラグビ一体験を通して、「目標を達成するためには、人と関わり合うことが大切」であることを、肌で感じることができた。</p>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<p>本校の3年生は、活発で運動することが好きな子が多い。しかし自分の楽しさを優先させてしまい、トラブルが多発することが多い。互いを思いやり、関わり合いながら目標を達成するよさを感じさせたいという願いと、タグラグビーは、3年生の体育科の学習として位置付けられている競技であることから、選択した。</p> <p>そのため、事前に電話を通して、子供たちの実態を伝えるとともに、当日の進め方について数回の打ち合わせを行った。学級ごとに2時間（2日間に分けて）実施した。</p> <p>また、本取り組みについては、本校ブログ（11月19日掲載）にて紹介したり、新聞各社に取材依頼を行って記事にしてもらったりすることで、保護者や地域の方など幅広く伝えるようにした。</p> <p>https://weblog.city.hamamatsu-szo.ed.jp/irino-e/2021/11/01935/</p>
8 主な課題等	<p>競技の体験を効果的に行うためには、運動場が望ましい。今回は、2日間とも天候に恵まれたが、雨天の場合には、体育館となり、活動の幅が狭まるように感じる。時間と場所の確保が課題と感じる。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>タグラグビーは、他者への尊重やチームワークなど学びの要素が大きい。今回藤井さんから伝えていただいたメッセージを生かし、本校児童に、人と関わり合って目標を達成する体験を多く持たせたい。また、この御縁を大切にし、次年度もお招きしたい。4～6年生までが参加するクラブ活動として行うことができないかを検討したい。</p>

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立入野小学校】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生 65名、5年生 80名 なかよし学級の4年生 6名、5年生 5名（知的障害）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（体育科） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	スポーツに対する興味・関心の向上を図ったり、困難に出会っても、やりたいことを見つけて、果敢に挑戦することの価値や、互いに支え合うよさを知り、共生社会や多様性への意識を高めたりする。
5 取組内容	<p>実施日時 令和3年 12月17日（金） 9:00～10:20 講 師 春田純さん（義足のスプリンター）</p> <p>(1) 春田さんによる講話</p> <ul style="list-style-type: none"> •なぜ、義足になったのか •支えてくれた人の存在の大きさ <p>(2) 春田さんとのふれ合い</p> <ul style="list-style-type: none"> •義足に触れる、切断した足に触れる •競技用義足をつけた春田さんと走る  <p>ロンドンパラリンピックに出場経験があり、義足のスプリンターとして、日本人初の11秒台の記録に挑戦した春田純さんをお招きして、お話をうかがう。講話の中で、「困難に出会っても、それに負けず、やりたいことを見つけよう」というメッセージを伝えていただく。</p> 

6 主な成果	<p>春田さんから、義足をつけることになったいきさつや、そのときの思い、周りの人と変わらない生活をしていることなどをうかがったこと、義足を外し、<u>ありのままの姿を見せていただいたこと</u>、<u>その足に全員が触れさせていただいたことは</u>、非常に貴重な体験となった。</p>  <p>以下、春田さんからのメッセージと子供たちの感想の抜粋。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px;"> <p><u>春田さんからのメッセージ</u></p> <p>だれかと力を合わせれば、できることは、いっぱいある。だから、チャレンジしよう。失敗してもいい。もし、うまくいかなかったら、また、別のことを行なえばいい。</p> </td><td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px;"> <p>春田さんの話を聞いてこれからたくさんのことに行きたいと思いました。チャレンジすることは1人でやることは少し大変だと春田さんはおっしゃっていたのですけれども、他の人の力もかりながら勇気を出してチャレンジしていきたいです。</p> </td></tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;"> <p>春田さんへ今日は、き・足のことやハラスホールのことでついて教えてください。ありがとうございます。(まずは、どうかいい者でもみんなと同じように楽しくでくらせることをかがめました。(まくはこの音楽を聞いてようかい春田・かわ何をしてあげるのかではなくみんなと同じようにおもてて過ごしてみんなで力を出していくのがいいことをなんたど分かりました。</p> </td><td style="vertical-align: top; padding: 5px;"> <p>春田さんのお話でどんなに苦しいことかあるまわりの人がそこまでくれていろいろと思えはがんばれる気持ちになると分かりました。やめに向かってしばりてしまふた新しいし・やめを見つければいいことが学べました。</p> </td></tr> </table>	<p><u>春田さんからのメッセージ</u></p> <p>だれかと力を合わせれば、できることは、いっぱいある。だから、チャレンジしよう。失敗してもいい。もし、うまくいかなかったら、また、別のことを行なえばいい。</p>	<p>春田さんの話を聞いてこれからたくさんのことに行きたいと思いました。チャレンジすることは1人でやることは少し大変だと春田さんはおっしゃっていたのですけれども、他の人の力もかりながら勇気を出してチャレンジしていきたいです。</p>	<p>春田さんへ今日は、き・足のことやハラスホールのことでついて教えてください。ありがとうございます。(まずは、どうかいい者でもみんなと同じように楽しくでくらせることをかがめました。(まくはこの音楽を聞いてようかい春田・かわ何をしてあげるのかではなくみんなと同じようにおもてて過ごしてみんなで力を出していくのがいいことをなんたど分かりました。</p>	<p>春田さんのお話でどんなに苦しいことかあるまわりの人がそこまでくれていろいろと思えはがんばれる気持ちになると分かりました。やめに向かってしばりてしまふた新しいし・やめを見つければいいことが学べました。</p>
<p><u>春田さんからのメッセージ</u></p> <p>だれかと力を合わせれば、できることは、いっぱいある。だから、チャレンジしよう。失敗してもいい。もし、うまくいかなかったら、また、別のことを行なえばいい。</p>	<p>春田さんの話を聞いてこれからたくさんのことに行きたいと思いました。チャレンジすることは1人でやることは少し大変だと春田さんはおっしゃっていたのですけれども、他の人の力もかりながら勇気を出してチャレンジしていきたいです。</p>				
<p>春田さんへ今日は、き・足のことやハラスホールのことでついて教えてください。ありがとうございます。(まずは、どうかいい者でもみんなと同じように楽しくでくらせることをかがめました。(まくはこの音楽を聞いてようかい春田・かわ何をしてあげるのかではなくみんなと同じようにおもてて過ごしてみんなで力を出していくのがいいことをなんたど分かりました。</p>	<p>春田さんのお話でどんなに苦しいことかあるまわりの人がそこまでくれていろいろと思えはがんばれる気持ちになると分かりました。やめに向かってしばりてしまふた新しいし・やめを見つければいいことが学べました。</p>				
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<p>春田さんには、4、5年生向けと、6年生向けの2回の講演をお願いした。3月で卒業する6年生と、来年度高学年として入野小に在籍する4、5年生とでは、これまでの経験や感じてほしい思いが違うためである。そのため、事前に電話やメールを通して、子供たちの実態、担任の思いを伝えるとともに、当日の進め方について数回の打ち合わせを行った。</p> <p>その上で、4、5年生には、「<u>困難に出会っても、それに負けず、やりたいことを見つけよう</u>」というメッセージを伝えていただきたいとお願いした。また、1人1人と近い距離でのふれ合いもお願いした。</p> <p>この取り組みについては、本校ブログ（12月17日掲載）にて紹介したり、新聞各社に取材依頼を行って記事にしてもらったりすることで、保護者や地域の方など幅広く伝えた。</p> <p>https://weblog.city.hamamatsu-szo.ed.jp/irino-e/2021/12/01985/</p>				
8 主な課題等	<p>競技用義足をつけた春田さんと子供たちが一緒に走る体験を組み込んでいたが、当日の明け方まで雨が降り、運動場を使用することができなかった。そのため体育館内での活動となり、思いきり走ることができなかつたことが春田さんも子供たちも残念そうであった。</p> <p>4年生、5年生も別々の講演とすれば、春田さんと子供たちのふれ合いの密度を濃くすることができたと思う。活動時間の確保が必要。</p>				
9 来年度以降の実施予定	<p>今回伝えていただいたメッセージ「<u>だれかと力を合わせれば、できることは、いっぱいある。だから、チャレンジしてみよう。失敗してもいい</u>」を生かし、来年度、高学年として学校を引っ張っていく立場となる子供たちに、多くの挑戦をさせたい。可能であれば、来年度もお招きして、お話をうかがいたい。</p>				

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】
学校名【 浜松市立入野小学校 】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童 495名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (読書活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックに関する図書コーナーを図書室内に設置し、オリンピック・パラリンピックに対する興味や関心を高める。
5 取組内容	図書室に来室した児童がいつでも手に取って読むことができるよう、図書室の一角落に「オリンピック・パラリンピックコーナー」を設置する。 読書の時間や調べ学習での活用も促す。 
6 主な成果	図書室内に置かれていることで、訪れた児童が、気軽に手に取り、オリンピック・パラリンピックについて関心を高めることができた。放送委員が給食時の放送でのクイズに活用していた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	子供たちの興味がわくように、各学年の学習内容に関わるものや、写真が多く使われているもの、クイズ形式で構成されているものなどを幅広く選ぶようにした。 また、本校ブログ(6/13)にて、このコーナーを紹介した。 https://weblog.city.hamamatsu-szo.ed.jp/irino-e/2021/06/01668/
	伝記的なものは、読書に抵抗のある子には、あまり読まれなかつた。簡略化された文章量（道徳の教材文程度）のものであれば、もっと多くの子が読めると感じた。 また、人気が集中した本は、複数冊の用意が必要だった。
9 来年度以降の実施予定	このようなコーナーがあることで、読書を通して、オリンピック・パラリンピックの理念やアスリートの思いから学ぶことができるるので、今後も継続したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立伊佐見小学校】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	小学校4年生・90名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（　　）</p> <p>③ その他（　　）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（　　）</p> <p>② その他（　　）</p>
4 目標 (ねらい)	4年生の福祉教育の一環として、車いすについての講話や試乗体験をすることで、車いすの作られ方や、車いすに乗っている人の気持ちを学び、インクルーシブな社会への関心や、日常で見られるユニバーサルデザインへの関心を高めていきたい。
5 取組内容	<p>令和3年11月18日(木) 13:20~15:00</p> <p>橋本エンジニアリング</p> <p>講話・体験（3学級×1時間）</p> <p>ユニバーサルデザインや車いすの製作についての講話を聞いたり、車いすの試乗体験をしたりする。車いすの操作をしたり、軽さを実感したりすることで、ユニバーサルデザインへの関心を高めたり、車いす利用者の思いを知ったりする。</p> <p>令和3年7月上旬～12月中旬</p> <p>図書コーナー開設</p> <p>パラリンピックやUDに関わる書籍を読み、総合的な学習の時間で行っている「福祉教育」へ生かす。パラリンピックの競技種目やルールを知ったり、障がい者と健常者がともに楽しめるスポーツに 관심をもったりする。</p>
6 主な成果	本事業を総合的な学習の時間で行う「福祉教育」の一環として設定したことでの、ユニバーサルデザインやパラリンピックへと児童の関心をより高める結果となった。児童の振り返りの中では、「車いすに実際に乗ることで、運転の難しさを知った。」など、車いすを利用している方々の大変さについて、児童は実感を伴って理解することができた。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>子供たちが主体的に取り組めるように、本校の第4学年の総合的な学習の時間で行う「福祉教育」の一環として行った。そのため、教員も系統性を意識して指導ことができた。</p> <p>本事業を通して、橋本エンジニアリングの講師の方の「車いすづくりに関する想い」に直接触れられた経験が、子供たちの「共生社会」に関心をもつ一歩になると考えられる。また、全体の活動やワークシートを生かしてキャリア教育につなげることができた。</p>
8 主な課題等	<p>今回の体験を様々な教科や領域と関連付けて生かしていくようにしていきたい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>今年度の事業は、4年生の総合的な学習の時間の一環として取り組んだため、来年度以降も、体験を基本として「福祉教育」に関連付け、継続的に行っていきたい。また、他学年において、道徳の教材で扱われているオリンピアン・パラリンピアンの選手の方にも講師として来ていただける機会があれば、活用していきたい。</p>

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立都田南小学校】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	アスリートとの交流 5年(67名)・6年(65名) 図書・展示 1~6年生(380名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(体育・総合的な学習の時間) ② 行事名() ③ その他(図書・展示コーナー設置) (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	・東京オリンピック・パラリンピックについて興味・関心を高める。 ・アスリートのスポーツに対する姿勢や思いを学ぶ。 ・オリンピック・パラリンピック大会の位置づけや歴史、オリンピックパラリンピックスポーツの種類、スポーツの多様性について理解する。
5 取組内容	① アスリートとの交流 令和3年10月21日(木) 10:25~12:05 講師: 宮城辰郎氏(短距離)、高林遼哉氏(長距離) ・アスリートの講演を聞いたり、交流したりすることを通して、スポーツに対する姿勢や思いを学ぶ。 本校出身の陸上アスリート2名とのスポーツ講座を行った。 <事前指導> ・選手の経歴をワークシートで紹介した。 ・当日、選手に聞いてみたい質問を集めた。 <当日> ・選手紹介 ・講話(トークショー形式) ・スポーツ教室(走り方講座・選手と対決) <事後指導> ・講座の感想、お礼の手紙作成



② 展示・パネルの設置

- ・オリンピックの歴史について
- ・共有スペースに設置し、自由に見られるようにする。



	<p>③ 関連図書の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を読む共有スペースを設置する。 
6 主な成果	<p><子供たちの振り返りから></p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手たちは、食事やトレーニングなどを、気を付けてやってすごいと思いました。 ・僕は長距離が得意ではないので、走り方を参考にしたいと思いました。 ・コツを忘れないで、習い事のサッカーでも生かしたいです。 ・私は走るのが苦手なので、今日教えてもらったことを生かして走れたらいいなと思いました。 ・速く走れる理由を聞いたので、教わった走り方をしてみたいです。 ・二人とも都田南小出身ということに驚きました。 <p>講座が終わった後も、子供たちから選手に質問する姿があった。体力テストや持久走記録会など、運動の機械に選手のアドバイスを振り返ることで、学びをつなげることができた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・本校出身のアスリートを講師として招き、地元からどのように育ったのかというキャリア教育の視点を取り入れながら、オリンピックを目指し、アスリートとしてどのように生活しているのかについて学び機会となった。 ・コロナ禍で感染症対策を講じながらも、広いグラウンドで間隔を取って活用することができた。講座とスポーツ教室を兼ね、聞いたことを実践する機会を設けることで、児童は主体的に取り組み、多くの児童が自分の知識や技能と結び付けて活動することができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・地元のアスリートを探すことが難しい場合もあると考えられる。また、継続して講師ができる人材を確保する必要がある。
9 来年度以降の実施予定	来年度も同様に実施したいと考えている。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立砂丘小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	・ボッチャ講演、体験：全校児童71名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（体育・道徳科） ② 行事名（　　） ③ その他（　　） (2) 地域における活動 ① イベント名（　　） ② その他（　　）
4 目標 (ねらい)	パラアスリートの話を聞いたり、ボッチャを体験したりすることで、パラリンピックへの関心を高める。また、老若男女問わず、誰でも楽しめるスポーツがあることを知り、インクルーシブな社会を構築する基礎を学ぶ。
5 取組内容	(1) ボッチャ講演・体験 • 日時 令和3年12月20日（月）9:25～12:05 • 講師 北澤和寿氏 • 内容 ボッチャの講演・ルール説明、体験 ①ボッチャの講演・ルール説明 動画やパワーポイントの資料をもとに、子供たちにボッチャのルール説明をしていただいた。   また、ボッチャをより楽しむために大切なことを教わった。 ②ボッチャ体験 2～4人チームを作り、赤組と白組に分かれて試合を行った。 全員が楽しめるように、特設会場や特別ルールを設けた。また、優勝すると北澤選手と対戦ができると説明し意欲を高めることができた。

自然と、「〇〇さん上手」、「いいところに球を置けたね」とお互いを認め合う発言が見られた。また、運動能力や性別、学年の違いに捉われることなく、誰もが楽しむことができた。実際に体験すると見ているだけでは分からない、競技の面白さや難しさを感じることができた。



感じることができた。

(2) ブラジル選手との交流

令和2年12月1日にリモート交流したパラ陸上のペトリュシオ・フェレイラ選手とハイサ・ホシャ選手を交流後も継続して応援してきた。

東京パラリンピック大会後には、静岡文化芸術大学が作成した2選手の大会結果等を掲載したボードを学校内に掲示した。

砂丘小のみんな おうえん ありがとう！

～「東京パラリンピック 2020」でブラジル選手がメダルをとりました～

8月にそつぎようした小学生がメッセージを書くったよ。

ペトリュシオ・フェレイラ 選手（24歳）

100メートル 10秒53	1位 (パラ新記録)
400メートル 48秒04	3位

ブラジルの選手とお話ししたときのようす (2020年12月1日)

ハイサ・ホシャ 選手（25歳）

やり投げ 24m39cm 2位

オトーパラリンピック静岡市内大学連携競技会 (2021年3月 開催: 静岡文化芸術大学)

6 主な成果

○北澤選手の体験談を聞いたり、実際に競技を経験したりすることでパラリンピックに対する関心が高まった。
○足が不自由でもボッチャに真剣に取り組む北澤選手の姿から、挑戦することの大切さを感じることができた。

	○運動能力や性別、年齢などに捉われない誰もが楽しめるスポーツの存在を知り、スポーツへの関心が高まった。
7 実践において工夫した点(事業の特色)	小規模校である点を生かして、全学年で講演・体験を行うことができた。実践を伴いながら、ルールを学ぶことができたので、低学年の児童でも集中して行うことができた。またトップアスリートの生の技を間近で見ることができたことも小規模校ならではのことだと思う。
8 主な課題等	今後も継続して学習を行うためには、オリンピック・パラリンピックの学習に特化するのではなく、各教科・領域と関連付けていく必要があると感じた。昨年行われた東京五輪や、今年行われる予定の北京五輪を軸として、道徳科や学活等で取り上げていきたい。
9 来年度以降の実施予定	課題にも挙げたように、各教科・領域と関連付けることで、本事業が子供たちにとって身近なものになると思う。講師や体験内容によって、ねらいや対象学年を決めていきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立砂丘小学校】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	1~6年 全校児童71名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名() ② 行事名() ③ その他(図書室での本や資料の展示) (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック及びスポーツ全般への関心を高める。
5 取組内容	(1) オリパラの図書は、図書室に特設の展示コーナーを設置した。 (2) オリパラのパネルを校舎内に展示した。
6 主な成果	図書やパネルにより、オリンピック・パラリンピック及びスポーツ全般への関心の高まりにつながった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	図書室に特設コーナーを設置することで、大会本番の夏休み前後には、本を手に取って読んだりする子が数多くいた。 学習まんがなど気軽に楽しみながら興味を抱かせたり、パラリンピックを通じてユニバーサルデザインと関連付けできる図書などを選定した。 また、パネルは児童たちの目に付きやすい箇所に展示し、興味がわきやすいように工夫した。足を止めてパネルを見ている児童が見受けられた。
8 主な課題等	本の紹介や周知に力を入れて、関連図書への興味をさらにもたらすとよいと感じた。
9 来年度以降の実施予定	オリンピック・パラリンピックのレガシー創出の一つの手法と捉えて、図書室にある関連図書を児童に紹介していくみたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立佐鳴台小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生(83名) 6年生(111名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(総合的な学習の時間) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	パラリンピック競技に使用される車椅子の製造をしている企業の方にパラリンピックとの関わりや福祉等について話を聞くことにより、共生社会について関心をもち、これから社会のために貢献しようとする心を育てる。また、使う人のことを考えた「ものづくり」の精神を企業理念としていることを知り、自分のキャリア感について考える。
5 取組内容	令和3年10月5日(火) 【4年生】14:20~15:10 (1) ユニバーサルデザインについての説明 思いやり駐車場 車いすでも利用できる自動販売機やエレベーター ピクトグラム (2) 橋本エンジニアリングの取り組みについて 会社の紹介 世界最軽量の車椅子の開発 (3) 車椅子体験   (4) 質疑応答 【6年生】10:20~12:00 (1) 講義 会社紹介、企業理念、企業戦略など 世界最軽量の車椅子の開発

	<p>パラリンピックへの思いや取り組み (2) グループワーク 　・大不況を乗り切るための取り組みについて 　・世界最軽量の車椅子を作ることができた理由について (3) 車椅子体験 (4) 質疑応答</p> 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松にある素晴らしい企業を知ることができた。 ・パラリンピックやパラリンピックに出る選手に興味がもてた。 ・誰もが幸せになるためには、どのようなことをしていけば良いかを考えることができた。 ・パラリンピックを通して地域や社会に貢献している企業の姿勢について知ることができた。 ・企業の戦略や努力によって、社会貢献できる幅が広がっていくことが理解できた。 ・企業の努力が自分の人生を動かすことにつながるという話の流れから、子供たち自身が生き方を考えるきっかけとなり、キャリア形成に役立った。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に車椅子に乗っている人が来てくださったのが良かった。 ・車椅子の実物を持ってきていただきたり、試乗させていただいたのがとても良かった。 ・グループワークを行うことにより、子供たち自身で考える機会があったことで、自分事として捉えることができた。 ・企業理念とパラリンピックのもつ力とをつなぎ、子供たちに自分自身の生き方を考えさせるきっかけを作ってくださったのが良かった。 ・全員が車椅子に試乗し、一人一人操作できたのが良かった。
8 主な課題等	特になし
9 来年度以降の実施予定	機会があれば実施したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立佐鳴台小学校】

1 実践テーマ	I · ② · III · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	小学校4年生～6年生 児童(26名)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (クラブ活動)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 () ② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	車椅子バスケットの体験を通して、パラスポーツについて理解したり、スポーツを楽しんだりする。また、障害のある人と交流することによって、多様性を尊重し、他者への共感や思いやりの心を育てる。
5 取組内容	<p>令和3年10月13日(水) 13:30～14:30 講師：佐々木雅啓氏</p> <p>1 あいさつ 2 車椅子と車椅子を使う人々の生活についての説明 3 車椅子の操作の仕方 4 車椅子で走る練習 5 車椅子バスケットボールの体験（対戦） 6 感想発表 7 あいさつ</p> 
6 主な成果	普段乗る機会のない車椅子に乗ったことや車椅子バスケットボールを体験できたことは、車椅子に興味をもつだけでなく、パラリンピックの車椅子競技で活躍した選手やパラ競技への関心ももつことができた。また、実際に車椅子を操作することで、楽

	しさや難しさを実感し、パラスポーツに携わる方の気持ちを想像することができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	一昨年度、体育館で行うクラブ活動が2つあり、狭いエリアでの活動になった。その反省から昨年度は、体育館でのクラブ活動は「車椅子バスケクラブ」だけにしたため、活動範囲が広くなり、子供たちは伸び伸びとプレーすることができた。今年度も、昨年度と同様に「車椅子バスケクラブ」に限定し、広い体育館で活動することができた。
8 主な課題等	バスケットコートが2面になったため、審判が2人必要になった。1面は講師の佐々木さんに審判をしていただいた。もう1面は、クラブ担当者が行った。「車椅子バスケットボール」のルールは講師の方が子供たちに説明したルールのみとし、細かいルールはなしにして審判を行うことにした。
9 来年度以降の実施予定	来年度以降もパラスポーツ(車椅子バスケット)体験をクラブ活動でしていく予定である。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立佐鳴台小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	1年生～6年生 全校児童(570名)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名() ② 行事名() ③ その他(本、資料の展示、貸出し)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名() ② その他()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○オリンピック、パラリンピック、およびスポーツ全般への関心を高める。</p> <p>○オリンピック、パラリンピックに参加する国の文化や歴史などを知ることで、国際理解の充実を図る。</p>
5 取組内容	<p>学校図書館の廊下に特設の掲示コーナーを設置した。図書室にもともとあったオリンピック・パラリピックに関連する本やスポーツの本に加えて協力校の大学から借用した図書もそこに置いて、児童がいつでも借りられるようにした。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・「すべての人が輝くみんなのスポーツを オリンピック・パラリンピックの壁を越えて」 ・「NEWスポーツを学ぼう 打つ・みせる ニュースポーツ」 ・「パラリンピック大事典」 ・「オリンピック ものしりチャンピオン」 ・「東京パラリンピックとバリアフリー」 パラリンピック競技を体験 ・「東京パラリンピックとバリアフリー」 パラリンピックで変わる日本 ・「めざせ スペシャルオリンピックス・世界大会」

	<ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツ ボランティア ハンドブック」 ・「オリンピックヒーローたちの物語」
6 主な成果	図書が常設されることにより、オリンピック・パラリンピック、及びスポーツ全般への関心が高まり、本を借りる児童が見られるようになった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	図書室に来た児童だけでなく、そこを通った児童が誰でも気軽に図書を手にすることができるように、図書室の中ではなく図書室前の廊下に図書を展示して目立たせた。また、展示されている図書資料を扈の放送で紹介した。
8 主な課題等	東京オリンピック・パラリンピックは終了したが、インクルーシブ教育としての活用など、図書と通じて関心を高めていく。
9 来年度以降の実施予定	今までのオリンピックの歴史やスポーツをすること・見ること・支えることに児童の興味関心がもてるよう、来年度以降も図書資料を利用して本事業を継続していきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立可美小学校】

1 実践テーマ	(I) · II · III · (IV) · V
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生 99人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック、パラリンピックに関する知識を広げ、2020東京オリンピック、パラリンピックに関心をもつとともに、オリパラの精神を自分の生き方に生かしていこうとする態度を育てる。
5 取組内容	<p>○ オリンピック・パラリンピックの歴史や意義に関する講話</p> <p>【日 時】令和3年7月7日（水）3校時（10:20～11:05）</p> <p>【講 師】大野木 龍太郎 教授（浜松学院大学）</p> <p>【演 題】「オリンピック博士になろう」「オリパラの歴史や意義を知ろう」</p>  <p>【内 容】以下について講話を聴いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピックの理念 <ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳保持に重きを置く ・平和な社会を推進する ・友情、連帯そしてフェアプレーの精神に基づく相互理解 ○ オリンピックの価値 <ul style="list-style-type: none"> ・卓越 ・友情 ・敬意/尊重

	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピックの精神 <ul style="list-style-type: none"> ・努力から得られる喜び ・他者への敬意 ・向上心 ○ フェアプレー <ul style="list-style-type: none"> ・体と頭と心のバランス ○ オリンピズムの根本原則 <ul style="list-style-type: none"> ・選手間での競争であり国家間の競争ではない ・重要なことは勝つことではなく参加することである ○ 2020 東京オリンピックピストグラムクイズ <p>開会式で話題となったピストグラムについて、どの競技を表しているのかを考えた。</p> ○ オリンピック・パラリンピッククイズ <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックの起源や歴史 ・オリンピックの旗の意味 ・オリンピックの3つのモットー ・中止になった大会とその理由 など
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・普段何気なく見ていたオリンピックの理念や価値を知り、東京で開催されることの喜びや重要性を感じることができた。 ・東京オリンピック・パラリンピックへの関心が高まった。特に、パラリンピックについて関心をもつきっかけとなった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	総合的な学習の時間にユニバーサルデザインについて学ぶ4年生を対象学年とした。オリンピックやパラリンピックの理念には人間の尊厳や平和など、総合的な学習の時間につながるテーマがあることを実感し、関心をもつことができた。
8 主な課題等	特になし
9 来年度以降の実施予定	来年度以降も、教科や総合的な学習の時間のねらいと一致するようであれば継続していきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立可美小学校】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	5年生 125人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	東京オリンピック、パラリンピック会場には多くの木質建築が採用されていることを知り、木質建築は美しさとともに、環境に配慮した持続可能な取り組みであることに気付くことができる。
5 取組内容	<p>○ オリンピック・パラリンピック会場の建築と環境の関係についての講話</p> <p>【日時】令和3年7月15日（木）3・4校時（10:20～11:50） 【講師】土屋 和男 教授（常葉大学） 【演題】「2020 東京オリンピック・パラリンピック会場で木を使った建築が造られるわけ」</p>   <p>【内容】以下について講話を聴いた。</p> <p>○ 東京オリンピック・パラリンピック会場の木質建築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立競技場（メイン会場） ・有明アリーナ、有明体育競技場 ・選手村ヴィレッジプラザ

	<ul style="list-style-type: none"> ○ サスティナビリティ（持続可能）って何だろう <ul style="list-style-type: none"> ・化石燃料による地球温暖化 ・温室効果ガス排出量削減のための取組 ○ 建築によるサスティナビリティ <ul style="list-style-type: none"> ・燃料となるべく使わない ・材料に木材を使い、木を植えて育てるサイクル ○ 静岡県内にある木質建築 <ul style="list-style-type: none"> ・草薙体育館 ・日本平夢テラス ・富士山世界遺産センター
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・木質建築を通して、地球温暖化など世界が抱える環境問題の状況について理解することができた。 ・オリンピック・パラリンピックというスポーツの祭典でも環境に配慮した取組が工夫され、持続可能な取組を東京から世界へ発信する役割があることを知ることができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	総合的な学習の時間に環境について学ぶ5年生を対象学年とした。オリンピック・パラリンピックでも環境に配慮した取組がされていることを知り、持続可能な取組について関心を深めることができた。
8 主な課題等	特になし
9 来年度以降の実施予定	来年度以降も、教科や総合的な学習の時間のねらいと一致するようであれば継続していきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立可美小学校】

1 実践テーマ	I · II · <input checked="" type="radio"/> III · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	【講話】4~6年 360人 【実技】4年 99人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・パラリンピックについて理解を深め、共生社会を築いていこうとする資質を養う。 ・パラリンピアンの競技に対する思いや努力を知り、夢に向かって何事も粘り強く取り組もうとする態度を養う。
5 取組内容	1 パラリンピックメダリストの講話 【日時】令和3年10月4日（月）2校時（9:20~10:05） 【講師】葭原 滋男 氏（パラリンピックメダリスト） 【演題】「パラリンピックから得たもの」 【内容】別室から動画を配信して、4~6年生11学級の児童が、各教室で講話を聴いた。主な内容は以下の通り。 ○ 蒿原さんの生き立ち ○ 障がい者スポーツを始めるきっかけ ○ 陸上競技、自転車競技でメダルを獲得した際の映像 ○ パラリンピックに出場して感じたこと ・チャレンジ精神　・あきらめない気持ち ・コミュニケーションの大切さ ○ 質問コーナー



	<p>2 ブラインドサッカーの体験</p> <p>【日 時】令和3年10月4日(月) 3・4校時(10:20~12:00)</p> <p>【講 師】葭原 滋男 氏(パラリンピックメダリスト) 視覚障害者施設ウイズ職員2人(実技指導・補助)</p> <p>【内 容】アイマスクをして歩いたりボールを蹴ったりする体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生を対象に1グループ8人程度で編成。 ・ガイドの声を頼りにボールを持って歩く。 ・ガイドの声を頼りにボールを的(コーン)に向かって蹴る。 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・葭原さんが獲得したメダルを実際に見せていただき、パラリンピックへの関心を高めることができた。 ・視覚障害があっても、前向きな気持ちで新しいことにチャレンジする姿に子供たちは感動し、障害があることは特別なことではないと実感できた。(心のバリアフリー) ・ブラインドサッカーボーイズでは、視覚を遮られることへの不安を感じるとともに、ガイドの声を信頼し、コミュニケーションを取りながら活動することの大切さを感じることができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの子供たちが講話を聞くことができるよう、別室から動画配信を行い、各教室で視聴した。 ・ブラインドサッカーの体験は、福祉をテーマに総合的な学習を進める4年生を対象に行った。今回の講座を通して、障害に対する見方が大きく変わり、思考の幅が広がった子供が増えた。
8 主な課題等	特になし
9 来年度以降の実施予定	来年度以降も、教科や総合的な学習の時間のねらいと一致するようであれば継続していきたい。リモート開催も検討。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立可美小学校】

1 実践テーマ	I · II · <input checked="" type="radio"/> III · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	3・4校時 6年生 140人 5・6校時 4年 100人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの競技用車いすについて知り、障がい者スポーツや共生社会についての理解や関心を高めることができる。 ・競技用車いすづくりの概要を聴き、浜松市の企業の技術力や努力を知り、働くことについての考え方を深める。 ・車いす体験を通して、障害のある人や高齢者など車いす利用者の思いや苦労を感じることができる。
5 取組内容	<p>○ 競技用車いすづくりについての講話と車いす体験</p> <p>【日 時】令和4年1月18日(火)</p> <p>3・4校時 4年生 5・6校特 6年生</p> <p>【講 師】(株)橋本エンジニアリング</p> <p>代表取締役社長 橋本 裕司 氏 管理部 係長 藤田 芙美代 氏</p> <p>【内 容】</p> <p>(1) 講話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすの種類 ・軽量な車いすの必要性 ・車いすを使ったパラスポーツの紹介 ・商品開発の願いや商品化の苦労 ・夢をもつことの大切さ <p>(2) 車いす体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすの操作方法 ・8台の車いすを使って体験 <p>(3) 質問コーナー</p>

	
6 主な成果	4年生と6年生の2学年が対象だったが、それぞれの違った活動のねらい（4年福祉教育、6年キャリア教育）に、適切に対応していただき、たいへん充実した活動ができた。講話の視点に合わせて違うプレゼンテーションを用意していただき、内容がとても分かりやすかった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	午前と午後に分けて実施していただくことができ、4年生の福祉教育と6年生のキャリア教育、2つの観点から活動に取り組み、たいへん効果的だった。
8 主な課題等	特にない
9 来年度以降の実施予定	来年度以降も、教科や総合的な学習の時間のねらいと一致するようであれば継続していきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立可美小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	1~6年 全校児童
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名() ② 行事名() ③ その他(本、資料の展示)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名() ② その他()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック及びスポーツ全般への関心を高める。
5 取組内容	<p>(1) オリパラの図書は、図書室に特設の展示コーナーを設置した。</p> <p>(2) オリパラのパネルを体育館へ通じる廊下に展示した。</p>
6 主な成果	図書やパネルにより、オリンピック・パラリンピック及びスポーツ全般への関心の高まりにつながった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>図書室に特設コーナーを設置することで、大会本番の夏休み前後には、本を手に取って読んだりする子が数多くいた。</p> <p>オリンピック・パラリンピッククイズの図書は、クイズ形式で楽しみながら興味を抱かせることができた。</p> <p>また、パネルは児童たちの目に付きやすい体育館へ通じる廊下に展示し、興味がわきやすいように工夫した。足を止めてパネルを見ている児童が見受けられた。</p>
8 主な課題等	本の紹介や周知に力を入れて、関連図書への興味をもたせるといいと感じた。
9 来年度以降の実施予定	オリンピック・パラリンピックのレガシー創出の一つの手法と捉えて、図書室にある関連図書を児童に紹介していくようにしたい。

令和3年度年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立雄踏小学校】

1 実践テーマ	I · II · <input checked="" type="radio"/> III · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	4学年児童161名 教員5名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	様々な人が暮らしていることやその人々を支える仕組みがあることに気づき、それぞれの立場、思いや願いを知るとともに、支え合う社会の大切さを理解する。
5 取組内容	<p>(1) 事前学習</p> <p>① 総合的な学習の時間「みんなが笑顔でくらすために」の学習についてのオリエンテーション ② 手話について調べる・点字体験</p> <p>(2) 体験・講話</p> <p>日時：令和3年6月11日 9：10～10：55 令和3年6月18日 9：10～10：55 (各日2学級ずつ)</p> <p>講師：常葉大学 健康プロデュース学部 心身マネジメント学科 神力 亮太 助教</p> <p>① 講話 パラリンピック及びブラインドサッカーについての講話 ② アイマスク体験 アイマスクを着用し、二人一組でアイマスク体験を行った。 ③ ブラインドサッカーの紹介とルールをきいた後に転がると音の出るボールを使って、ブラインドサッカーの体験をした。アイマスクを着用しないガイド役の子供が手をたたき、ボールの場所を伝え、協力して簡易ゲームを行った。</p>

	<p>(講話・アイマスク体験)</p>  
	<p>(ブラインドサッカ一体験)</p>  
	<p>(3) 視覚に障害を持った方との交流と盲導犬の役割を知る講話 講師 ウイズ半田 施設長 欽波様</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ ブラインドサッカーを体験する中で、目が見えるガイドの役目の難しさに気付いた。そのことにより、実際の生活の中で、視覚障害をもった方達への接し方を考えていこうとする気持ちをもった。 ○ ガイド役を体験することで、パラリンピックのスポーツは、サポートするガイドの役割が重要であることを実感し、助け合うことの大切さについて考える良い機会となった。 ○ ブラインドサッカーという種目を知ることによって、障害に関わらず楽しむことができるスポーツがあることを知り、自分たちも共に楽しめることを知った。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	総合的な学習の時間のテーマである「みんなが笑顔でくらすために」の体験活動として、手話、点字体験、視覚に障害をもった方との交流に加え、パラリンピック種目の体験を実施することで、豊かな学びの実現を図った。パラリンピックの種目の紹介や楽しさだけでなく、共生・共存という観点から、その大切さを感じ取れるようにと事前指導や体験の目的を意識させた。
8 主な課題等	パラスポーツの体験重視ではなく、共生・共存を更に意識させるために子供たちへの投げかけ方を更に工夫していきたい。
9 来年度以降の実施予定	4年生の「総合的な時間」のテーマに沿っており有意義な学習であるため来年度の教育計画にその目的を明記し、他の行事を考慮しながら実施を検討していきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立雄踏小学校】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	6学年児童152名(発達学級児童含む) 教員5名 6年保護者希望者
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(総合的な学習の時間・キャリア教育) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックに関する指導として、アスリートの講話を聞くことを通して、目標に向かって努力することの大切さを知り、自分の未来について考える。
5 取組内容	(1) 事前学習 講演者 杉本龍男さんの経歴を知り、講話への関心を高める。 (2) 講話 日時：令和3年7月2日 10:10～10:55 講師：杉本 龍男さん バルセロナ五輪 陸上競技 リレー出場 法政大学経済学部 教授 講話 「目標の大切さ」 <6年>  
6 主な成果	オリンピック出場という夢をもち、その目標に向かって努力されたアスリートの方のお話を実際に聞くことを通して、自分の生き方について考えることができた。夢や目標をもつことの

	大切さを知るとともに、それを達成するための努力の大切さを学ぶことができた。子供の中には、実際に出た人しか分からぬことを知り、自分の夢に全力を尽くしたいという思いをもつたという感想をもつ児童がいた。キャリア教育の一環として、自分を見つめ高めようとするよいきっかけとなった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	コロナ禍ということがあり、広い体育館で三密にならないように隊形を工夫し、マスクを着用した。 キャリア教育の一環として、事前に講師紹介を行い、オリンピックへの関心や陸上競技への関心を高めるようにした。
8 主な課題等	キャリア教育の一環として、自己理解、自己管理能力の育成の面で、子供たちに意識づけをはっきりとさせることが大切だと感じた。
9 来年度以降の実施予定	有意義な学習であるため来年度の教育計画にその目的を明記し、他のキャリア教育の講話の内容を加味しながら実施を検討したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立雄踏小学校】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	3学年児童171名(発達学級を含む) 教員6名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名(体育科) ② 行事名() ③ その他()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名() ② その他()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックに関する指導として、オリンピック種目を体験したり、アスリートの講話を聴いたりすることを通して、スポーツに対する興味・関心の向上を図る。
5 取組内容	<p>(1) 事前学習</p> <p>体育科・・・タグラグビーの特徴についての説明 簡単なルールの説明 基本的動作の練習</p> <p>(2) 体験・講話</p> <p>日時：令和3年11月16日 2・3時限 11月17日 2・3時限 ※ 1学級、1時間で実施</p> <p>講師：静岡ブルーレヴズ育成・普及担当 藤井達也様 ※ タグラグビーの紹介 ※ 基本パスの仕方</p>   <p>※ 練習の仕方の説明 ※ 1対1</p>

	 <p>子供たちは、まだ、体育科の授業で経験していないため、基本的な動作を中心に指導を受けた。パスの仕方や方向、守りについて学んだ。</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供たちを巧みにひきつけ、オリンピックやラグビーに関する話を聞くことができた。それをもとにラグビーや今後授業で取り組むタグラグビーへの興味や意欲をもつことができた。 ○ どうすると勝てるかだけでなく、どうすると皆で楽しいゲームになるのかを考えさせながらの指導をしてもらうことで、子供たちは楽しく体験できた。 ○ 実際にパスを見せていただき、ラグビーの迫力に驚き、プロとしてのプレーに触れることができた。 ○ タグラグビーの基本的な動作を練習し、その後の体育科の授業でのゲームに生かした。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	実施時期を体育科の年間計画よりも前にした。そのことで体育科への意欲は高まった。気候的にも寒すぎず、暑すぎず良かった。
8 主な課題等	実施時期は、体育科の授業への意欲化には有効であったが、時間的に基本練習が中心となることで当日の満足度は低かった。どちらを優先するかで、実施時期の検討が必要である。
9 来年度以降の実施予定	タグラグビーのゲームの特質をつかませ、経験させるためには有効な体験であり、年間計画や他教科との関わりで検討が必要である。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立雄踏小学校】

1 実践テーマ	I · II · <input checked="" type="radio"/> III · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	5学年児童161名(発達学級児童含む) 教員6名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名(総合的な学習の時間・体育科) ② 行事名() ③ その他()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名() ② その他()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックに関する指導として、パラスポーツを体験したり、アスリートの講話を聴いたりすることを通して、スポーツの意義や価値等に触れさせる。
5 取組内容	<p>(1) 事前学習</p> <p>① DVDを活用し、ボッチャの内容を知る。 ② 講演者 北澤和寿さんの経歴を知り、講話や体験活動への関心を高める。</p> <p>(2) ボッチャ体験・講話</p> <p>日時: 令和3年11月16日 5・6時限(5年生)</p> <p>講師: 北澤 和寿さん</p> <p>① ボッチャの紹介・ルールについて <5年></p> 

	<p>② ボッチャ体験活動 <5年></p> 
	<p>③ 質疑応答 北澤さんの事故の体験から、ボッチャとの出会いまでのいきさつを聞いた。</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ボッチャ」という競技を体験したことでの「ボッチャ」という種目はもちろんパラリンピックに対しても興味をもち、その後のパラリンピックをテレビで観戦した子供が増えた。 ○ 「ボッチャ」のルールを知り、投げ方の工夫、駆け引きの面白さやゲームの楽しさを体感することができた。障害者と健常者ともに楽しめるスポーツがあることを知った。 ○ 突然の出来事によって障害を負ってしまっても、「できないこと」を探すのではなく「できることを探す」ことによって目標をもち、充実した生活を送っている人がいることを知った。 ○ 自分たちも前向きに考えようという感想をもった。 ○ パラリンピックに関心をもち、テレビ観戦等でアスリートを応援した。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	全校舎、設備がバリアフリーであり、多目的教室が3教室ある本校では、障害をもった講師の方々には実施しやすい環境である。一学年の人数が多いため、2時間の予定で進めたことが良かった。また、講話と体験を分けることによって、北澤さんのお話を真剣に受け止めて聞くことができた。
8 主な課題等	本校は、1学年の人数が多いため事前の教員に対するルール説明や体験は必要である。当日、チーム数が多いため、審判の数の確保の工夫が必要である。
9 来年度以降の実施予定	教育課程に照らし合わせて、嫉視するかしないか、また実施する場合、どの学年で、どの目的で実施するかを検討していきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立雄踏小学校】

1 実践テーマ	I · II · <input checked="" type="radio"/> III · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	4学年児童161名 教員5名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	様々な人が暮らしていることやその人々を支える仕組みがあることに気づき、それぞれの立場、思いや願いを知るとともに、支え合う社会の大切さを理解する。
5 取組内容	<p>(1) 事前学習</p> <p>① 総合的な学習の時間「みんなが笑顔でくらすために」の学習についてのオリエンテーション ② 手話について調べる・点字体験 ③ 「ブラインドサッカー講話・体験 講師：常葉大学 健康プロデュース学部 心身マネジメント学科 神力 亮太 助教 ④ 資格に障害を持った方との交流と盲導犬の役割を知る講話 講師 ウイズ半田 施設長 欽波様</p> <p>(2) 出前講座</p> <p>日時：令和3年12月14日 10:00～11:40 講師：橋本エンジニアリング 藤田様 大城様 内容</p> <p>① ユニバーサルデザインの説明と市内にあるデザインの紹介 ② 車いすの開発(障がい者だけでなく、高齢者や介助者、家族に優しい世界最軽量の車いす開発)</p>

	  <p style="text-align: center;">③ 車いす体験</p>   <p style="text-align: center;">一人ずつ、軽量車いすの操作を体験した。それを利用する障がい者の方の立場になってその良さを体感した。</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインの意味を改めて知ることによってその目的を再認識した。また、今後バイアフリーが進み、どの人も同じように生活できる社会がくるようにという思いをもった。 ○ 障がい者の方だけでなく、広く高齢者や介助者、その家族の事を考える車いすの開発が大切であることに気付いた。 ○ 世界初の軽量化に成功した技術のすごさを体験し、車いすを利用する方たちの負担を減らすことができる開発のすばらしさを感想に書いた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	総合的な学習の時間のテーマである「みんなが笑顔でくらすために」の体験活動として、手話、点字体験、視覚に障害をもつた方との交流、パラリンピック種目の体験などと結び付け、社会におけるユニバーサルデザインの実践について豊かな学びの実現を図った。自分たちも社会の一員として共生・共存という観点から、その大切さを感じ取れるようにと事前指導や体験の目的を意識させた。
8 主な課題等	実施時間を2時間にすることで、大人数の学年でも全員が車いすを体験することができた。実施方法によって特に課題はなかった。
9 来年度以降の実施予定	4年生の「総合的な時間」のテーマに沿っており有意義な学習であるため来年度の教育計画にその目的を明記し、他の行事を考慮しながら実施を検討していきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

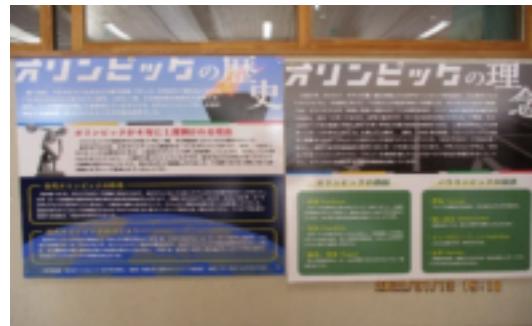
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立雄踏小学校 】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童 877名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (図書コーナーの設置・校内掲示)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 () ② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック関連の図書コーナーの設置や掲示を通して、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高める。
5 取組内容	<p>＜図書＞</p> <p>令和3年6月から令和4年1月までの間、来室した児童がいつでも読めるように、図書室に図書ボランティア（保護者）による「オリンピック・パラリンピックコーナー」を設置した。コーナーには、オリパラ教育の連絡協議会より以下の本を借用した。</p> <p>図書ボランティアがレイアウトやひきつけるような掲示の仕方を工夫し、オリンピック・パラリンピックを盛り上げた。</p> <p>わずかな休みや読書指導の時間に読めるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの 　1夢に向かってチャレンジ！ ・心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの 　2助け合い、支え合って ・心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの 　3世界の人々とつながって ・オリンピック・パラリンピッククイズ 　オリンピック人物編 ・ドラえもんふしきヒストリー 2 ・こどもオリンピック新聞 ・ほんとうにあったオリンピックストーリーズ

	  <p style="text-align: center;">雄踏小マスコット ゆうさくくん</p> <p style="text-align: center;"><校内掲示> 全児童の目に触れるようにと、昇降口にパネルを掲示した。</p> 
6 主な成果	オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、関連図書に対して興味を持ち、手に取る児童や、昇降口の掲示について立ち止まりじっくりと読む児童が多くいた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	図書コーナーの設置は、保護者の図書ボランティアと図書館補助員の方が主になり、オリンピック・パラリンピック開催までは出入口正面に、閉会後は図書室の中心にある掲示コーナーに設置した。
8 主な課題等	コロナ禍対策により、図書室の利用が制限されたことや、貸し出し不可にしたことによって読みたくても読む時間が確保できなかった。 オリンピック・パラリンピックの開催と共に、推進事業の講話や体験の実施により児童の興味関心が高まっている。自由に貸し出しができる本を校内で確保していくとよい。
9 来年度以降の実施予定	図書室のオリンピック・パラリンピック関連の本を充実させ、児童の興味、関心を高めたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立伊目小学校】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	1年生16名 2年生9名 3年生13名 4年生24名 5年生24名 6年生27名 計 1137名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間・体育科） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックのことについての講演や種目体験、図書コーナーの設置をとおして、オリンピック・パラリンピックについての理解と関心を高めるとともに、インクルーシブな社会（共生社会）を築く一員としての意識を高める。
5 取組内容	<p>1 オリンピック・パラリンピックの意義について学ぶ</p> <p>国際オリンピック委員会公認教材「オリンピック価値教育の基礎（OVEP）」や国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」等を活用し、オリンピック・パラリンピックについて学んだ。</p> <p>2 ブラジルアスリートへの応援フラッグ製作</p> <p>浜松市に滞在するブラジルパラリンピックテニス代表への応援フラッグを作成した。タブレットを活用し、ポルトガル語に翻訳したメッセージを書き込み、製作することができた。</p> <p>ブラジルパラリンピアンからの返信もいただくことができ、子供たちは充実感を味わうことができた。</p>  

3 パラリンピアン講演会

日時：令和3年11月2日（火）13：30—15：00

競技：陸上競技

講師：春田 純 氏（ロンドンパラリンピック出場）

- これまでの苦労や努力、そしてパラリンピック出場までの過程を語っていただいた。
- 3～6年生の児童全員と8回に分けて50m競争を行った。パラリンピアンの凄さを感じることができた。



4 「1万人の笑顔のリレープロジェクト」参加

聖火リレートーチ「1万人の笑顔のリレープロジェクト」で、地元の方からトーチを貸していただいた。

オリンピック・パラリンピックコーナーに展示し、実際にトーチに触れたり、持ったりし、記念撮影も行った。

本物に触れることができ、オリンピック・パラリンピックへの関心を高めることができた。

撮影した写真をオリパラコーナーに掲示した。



	<p>5 図書・展示コーナー設置</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック・パラリンピックの映像を常時放映し、オリンピック・パラリンピック競技への興味をもたせた。 ・オリンピック・パラリンピック関連図書コーナーを昇降口に特別設置し、貸出を行った。
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック大会前に事前授業や応援フラッグ作成を行ったり、大会後に講演会や映像の展示を行ったりすることで、オリンピック・パラリンピックに対する興味をもたせることができた。 ・事前学習や講師の講話から「障害があるから助けるのではなく、障害の有無と関係なく、困っている人を助ける。障害はデメリットではなく、メリットとしても捉えることができる。」といった気持ちを持つことができ、インクルーシブな社会（共生社会）への意識が高まっていることを感じた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【参加した児童の振り返りより】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなと違うところ、短所などもメリットや長所に変えられるということを知りました。 ・障害者の人だけでなく、困っている人の助けになればいいなと思いました。また、私が何か困ってしまったときに何でも言える友達を作り、私も友達が困っているときに何でも言える友達になりたいと思いました。 ・障害者を見たときに、かわいそうと勝手にイメージを持ってしまってはダメなんだと思いました。 ・障害者だからできない、やれないというのは違って、自分で勝手に思い込みを持っているだけだと分かりました。 </div>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	オリンピック・パラリンピックをスポーツの祭典という一面で捉えるのではなく、多面的な見方で見ることができることを子供たちに伝えられるように心がけた。特に、パラリンピック、パラリンピックスポーツを通して、インクルーシブな社会（共生社会）への意識を高めることを心がけた。
8 主な課題等	新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた活動を縮小して行うことになった。
9 来年度以降の実施予定	この事業を通してできた縁を大切に、来年度以降も関わりを持ち続けて、体験や講演をお願いしていきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立井伊谷小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	○オリパラ関連図書コーナー（全校・444名） OPTA教育講演会（PTA・87名） ○タグラグビー（3年・91名） ○聖火リレー（2年・70名） ○陸上（5・6年陸上部・64名） ○ボッチャ（4年・58名） ○スポーツSDGs講座（5年・78名） ○ダンス（1年・84名、2年・70名、3年・91名） ○義足アスリート（4年・58名、6年63名） ○ブラジルパラ選手リモート交流（5年A組・39名） ○パラ水泳指導者（3年・91名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（体育科・道徳・総合的な学習の時間・学活） ② 行事名（PTA教育講演会） ③ その他（部活動・図書室での本の貸出） (2) 地域における活動 ① イベント名（） ② その他（）
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックを通じてスポーツや体を動かすことの楽しさを知ったり、国際理解や共生社会について学んだりする中で、「好きな人、好きなもの、好きなこと」を増やしていく。自分の夢や生き方を考えるきっかけづくりとし、学校教育目標「井の国で 心豊かに たくましく 伸びる子」の実現を目指す。
5 取組内容	オリパラ関連図書コーナー 6/1～ オリンピック・パラリンピックについてのパネルと、関連した本を7冊貸与していただいた。オリンピック・パラリンピックに興味をもち、特に夏休み前には本を借りていく子が多かった。 

PTA 教育講演会 6/13

ペアトレリズムラボの DAIKI 様、VANY 様を講師に招き、「体勢理論を用いた、自分のお子さんを知るための講座～その子が、足の裏のどこに体重をのせているか知っていますか？～」をテーマに、実技を交えて講話を保護者が聴いた。



タグラグビー 6/22・23

3年体育科「タグラグビー」の学習の導入として、ヤマハ発動機ジュビロラグビーの方々を講師に招き、2日連続でルールや動きを教えていただいた。ゲームを体験し、おもいっきり楽しんだ。



聖火リレー 6/22

浜松市北区内を走る聖火リレーの応援に、2年生が出掛けた。オリンピックや聖火について事前に学び、児童一人一人がランナーや選手に向けた応援の絵とメッセージを旗に描き、ランナーを応援した。



陸上 10/12・14

TOMO RUNの方々を講師に招き、陸上部の5・6年生が、実技指導をしていただいた。専門的な理論や具体的な練習方法を教えていただいた。



ボッチャ 10/18

地元地域の先輩でもある北澤様を講師に招き、生き方を学び、実技では、ボッチャ対決をした。ボッチャの難しさや北澤様の技術の高さに驚かされた。



スポーツSDGs講座 10/22

常葉大学木村教授を講師に招き、グループごとに「スポーツSDGsすごろく」を行い、2030年までに達成すべき17の項目について学んだ。質問に対して、グループの友達と活発に意見を交換した。



	<p>ダンス 10/25・26・28 インストラクターである RISA 様を講師に招き、1～3年計8学級が、1時間ずつダンスを教えていただいた。教えていただいたダンスを翌月の学習発表会で保護者に披露した。</p> 
	<p>義足アスリート 11/2 春田様を講師に招き、6年生は道徳で、4年生は総合的な学習の時間として講話を聞いた。4年生は、講話だけでなく、運動場で練習を教えていただいたり、春田様と競走をしたりした。</p> 
	<p>ブラジルパラ選手リモート交流 12/3 5年 A 組が、ブラジルパラ水泳選手とリモート交流をした。外国語の学習として行い、事前にポルトガル語を調べ、画用紙に書いて発音し、質問をしたり日本の文化を紹介したりした。</p> 
	<p>パラ水泳指導者 12/20 水泳教室で永年指導をされているぴゅあサポート代表の伊藤様を講師に招き、3年生がパラリンピックについて教えていただいた。自分の力を引き出すことの大切さ、それを妨げているのが諦めだということを学んだ。</p> 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> どの活動も、オリンピックやパラリンピックを身近に感じることができた。特に、専門的な知識をもっている方だったり、アスリートだったりするので、より子供の心に響き、スポーツの楽しみ方、生き方を学ぶことができた。 タグラグビー・ダンスの体育科としての取り組みでは、教師も教え方に苦慮している単元でもあり、専門的な講師の方に教えていただいたことで、子供たちは運動の楽しさを味わうことができた。「苦手だったダンスが好きになりました。」との子供の感想もあった。 総合的な学習・道徳としての取り組みでは、北澤様や春田様に直接触れ合えたことで、どんなに困難やハンディキャップがあるても、「一生懸命に生きること、へこたれない気持ちをもつこと」の大切さが理解できた。パラスポーツに興味をもち、「車椅子バスケやゴールボールをやってみたい。」という子供の感想もあった。

	<ul style="list-style-type: none"> リモート交流では、地球の裏側のブラジルとリモートでつながり、選手と直接会話できることに、子供たちは大満足だった。ポルトガル語で頑張って伝えると、選手がうなずいてくださったので、言葉と心が通じ合ったと子供たちが実感できた。この交流を通して、語学に興味をもつ子供も出てきた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> 本校のキャリア教育の全体目標「好きな人・もの・こと」を増やし、“自分から”前向きに取り組める子の育成」を意識し、夢や生き方を考えるきっかけづくりにした。そのため、事後の振り返りも大切にした。 全学年の子供たちが、できるだけオリンピック・パラリンピックに関心がもてるように、講師の方の専門性と各学年の学習・活動を組み合わせた。 (例：春田様の講話は、4年総合「福祉」と6年道徳で行った。 1年は、オリンピック応援フラッグ作成も行った。)
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとの活動だったため、行った活動を全校に広める工夫が必要だった。 講師の方との打合せが十分にできず、事前指導が不十分のまま、講師の方に「当日お任せ」状態になってしまることが多かった。 特別教室や体育館の通信環境の整備が必要だと思った。講話の時に YouTube の動画を見せたり、リモート交流をしたりする際に、画面に映らない時があった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の活動ができるだけ継続して行いたい。 常葉大学などの大学と連携し、学生を講師やボランティアとして招きたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立奥山小学校】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生 14人 5年生 9人 6年生 15人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○パラアスリートの方の今までの生き方や、パラスポーツに対する思いや取り組みなどについて話を聞きすることにより、自分の生き方を見つめ直し、夢の実現に向けて努力していくこうという態度を養う。</p> <p>○実際に、一流の技に触れながら、スポーツを体験することを通して、スポーツに対する興味・関心を高め、生涯にわたってスポーツを楽しもうとする心を育む。</p>
5 取組内容	<p>【実施日】 令和3年6月24日（木）5・6校時</p> <p>【講師】 春田 純 氏</p> <p>【実施内容】</p> <p>(1) 講話 (2) 短距離走体験 (3) 春田さんとの短距離走対決</p>  

	 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちは、講話を通して、パラリンピックへの興味関心を高めることができた。また、苦しいことはいろいろあるけれど、それを乗り越えて、今自分ができることを精一杯頑張ることの大切さを感じることができた。 子供たちは、春田さんと一緒に運動場を走ったり、50m走を対決したりして、改めて、パラアスリート選手のすごさを実感することができた。また、短距離走のコツも教えていただくことができた。 <p>【子供の感想より】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体が不自由でも、自分のやりたいことを見つけてがんばっていることがすごいなと思った。 春田さんは義足でも、ぼくたちよりもすごく速く走っていたので、びっくりした。 春田さんの最後のメッセージのように、優しい気持ちをもって、友達や仲間を大切にして生活していきたい。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	講話を体育館で聞き、短距離走体験を広いグラウンドで行ったので、子供たちも思いきり体を動かすことができた。
8 主な課題等	短距離走体験の時間が十分とれなかったので、時間設定をもう少し工夫すればよかったです。
9 来年度以降の実施予定	4年生が、総合的な学習の時間で「福祉」をテーマに学習を進めているので、その学習と関連付けながら、進められるといいと感じている。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立奥山小学校】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	3年生 9人 4年生 14人 5年生 9人 6年生 15人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○パラリンピックの正式競技である「ボッチャ」を体験することを通して、パラスポーツへの興味・関心を高める。</p> <p>○北澤さんの今までの生き方やパラスポーツに対する思いや取り組みなどについて話を聞きすることにより、自分の生き方を見つめ直し、夢の実現に向けて努力していこうという態度を養う。</p>
5 取組内容	<p>【実施日】 令和3年11月2日（火）5・6校時 【講師】 北澤 和寿 氏 【実施内容】</p> <p>(1) 講話 (2) ボッチャ体験 (3) 北澤さんとのボッチャ対決</p> 

	
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> パラリンピックが終わって、約二ヵ月後の事業だったため、子供たちにとっても、馴染みやすいパラスポーツであった。 講話を通して、障害をもちながらも、夢を見つけ、それに向かって努力し続けることの大切さを感じることができた。 子供たちは、体験を通して、「ボッチャ」というスポーツは、簡単そうに見えて奥の深い競技であることを知り、チームで作戦を立てながら楽しく活動することができた。 <p>【子供の感想より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体が不自由でも、自分のやりたいことを見つけてがんばっていることがすごいなと思った。 ・ボッチャは、初めてやったけれど、思った位置にボールを投げるのが難しかった。 ・北澤さんと奥山最強チームとの対決がとても盛り上がった。北澤さんのプレイは、本当にすごかった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習として、「ボッチャ」というスポーツのルールについてのDVDを視聴することで、活動にスムーズに取り組むことができた。 講話を聞いた上での体験という流れで、活動時間も十分確保でき、約1時間半の時間設定もよかったです。
8 主な課題等	この事業だけに特化せず、事前学習や事後学習を充実させ、学習のつながりをもたせた活動にしていくことが大切であると感じた。
9 来年度以降の実施予定	4年生が、総合的な学習の時間で「福祉」をテーマに学習を進めているので、その学習と関連付けながら、進められるといいと感じている。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立奥山小学校】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	1年生 9人 2年生 10人 3年生 9人 4年生 14人 5年生 9人 6年生 15人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（体育科） ② 行事名（） ③ その他（） (2) 地域における活動 ① イベント名（） ② その他（）
4 目標 (ねらい)	プロのダンサーの方からダンスを教えていただくことで、身体を動かすことの楽しさを味わうとともに、スポーツへの興味・関心を高める。そして、学んだことを体育科の授業における「表現活動」や「リズムダンス」等で生かそうとする態度を育む。
5 取組内容	<p>【実施日】 令和3年12月6日（月）2校時 1～3年生 3校時 4～6年生</p> <p>【講師】 中澤 里彩 氏</p> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ダンスレッスン <ul style="list-style-type: none"> (1) 柔軟運動 (2) 基本的なステップの仕方 (3) 音楽に合わせてダンス (4) 2グループに分かれて、互いのダンスを見合う。 最後には、「表現することの大切さ」について、温かいメッセージをいただいた。  

	
6 主な成果	<p>ダンスレッスンを通して、身体を使って自分の思いを表現することの楽しさや、ダンスの魅力に触れ、「ダンスが好きになった」という子供が増えた。また、教員にとっても、子供の表現意欲を引き出すかかわり方を学び機会となった。</p> <p>【子供の感想より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は、恥ずかしかったけれど、やっていくうちに、ダンスがもっと楽しくなってきた。 ・足のステップが難しかったけれど、手の動きもつけてがんばって練習したら、できた。できたときは、とてもうれしかった。 ・音楽に合わせて、身体を動かすことは、とても気持ちよかったです。また、ダンスをやってみたい。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	講座の内容や講師の方について、教室で事前指導を行ったことで、ダンスレッスンの時間を十分確保した。
8 主な課題等	ダンスレッスン終了後、講師の方が子供たちを集めて、「自分の思いを表現することの大切さ」を語ってくださったので、キャリア教育の観点から、講話をいただく時間を設定することもよいかと感じた。
9 来年度以降の実施予定	体育科の学習内容に、どの学年にも表現運動が位置付けられているので、このような機会をもつことができれば、実施していきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立奥山小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	1年生 9人 2年生 10人 3年生 9人 4年生 14人 5年生 9人 6年生 15人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (読書活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるとともに、読書活動を通して、オリンピックについての見識を広め、自分の生き方につなげようとする態度を育てる。
5 取組内容	<p>○図書室に図書・展示コーナーを開設し、オリンピック・パラリンピック関連の図書を置き、子供たちが自由に読むことができるようとした。また、オリンピック・パラリンピックの新聞記事なども掲示した。</p>   <p>○昇降口に、オリンピック・パラリンピックの看板を設置し、興味をもたせた。</p> 

6 主な成果	読書活動を通して、オリンピック・パラリンピックについて、興味関心を高めることができた。また、夢に向かって努力することの大切さを学ぶことができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	キャリア教育の視点から、子供たちがさまざまな生き方や考え方方に触れることができる読みやすい内容の本を選定した。
8 主な課題等	道徳科の授業の補助資料などに活用できるとよい。
9 来年度以降の実施予定	子供たちの表現力の向上のためにも、継続して、読書活動の推進に努めていきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立庄内中学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	中学3年生：90名 講演+実技指導 中学2年生：76名 講演（リモートによる） 中学1年生：70名 講演（リモートによる）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	オリンピック選手からお話を聞くことで、オリンピックを身近に感じ、東京オリンピックに関心を持たせる。オリンピック出場という夢を実現させた過程を知ることにより、自分の生き方について考えさせる。
5 取組内容	○道徳の題材「夢をあきらめない」の授業の中で、講師の杉本龍勇さんの資料を紹介し関連付けた。 ○令和3年7月2日13:45～14:35 講演会 講師 バルセロナオリンピック出場 杉本龍勇様 題 「人生を自ら開拓する」 中学3年生83名：体育館 中学2年生74名：教室でのリモート 中学1年生69名：教室でのリモート



	<p>○令和3年7月2日 14:45~15:35 実技指導 中学3年生83名：体育館</p> 
6 主な成果	バルセロナオリンピック出場を果たした杉本龍勇さんから「夢を目標にする強い意志を持とう」「目標があつて初めてそこに向かって地道な努力ができる」など、杉本さんの実体験を基にした説得力のあるお話を聞き、特に中学3年生は直面している進路に対する考え方を再確認する良い機会となった。実技指導では、少しの意識の持ち方で走り方が変わることを教えていただき、上達を実感した生徒たちは楽しく取り組むことができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	体を動かすことが好きな生徒が多く、部活動が盛んな学校のため、全校生徒の実技指導を中心にお願いした。あいにく雨天であったため体育館で実施をしたが、生徒にとって満足のいく活動、体験であった。コロナウイルス感染症対策のため、中学3年生83名が実技指導を行い、中学1年2年は各教室でリモートにより講演だけを聞くことにした。
8 主な課題等	せっかくの良い機会なので、直接話を聞いたり、指導を受けたりすることが望ましいが、コロナウイルス感染症対策や天候の影響が難しいと感じた。回数や時間を増やすことができればよいと思われる。
9 来年度以降の実施予定	今後の実施予定は未定であるが、機会があれば保健体育の授業や部活動の活性化、健康教育のために利用していきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立庄内小学校】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生58名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	障がい者スポーツへの知識を深めたり、楽しく取り組んだりすることを通して、福祉について理解を深める。
5 取組内容	<p>1. 事前学習</p> <p>DVDを活用してボッチャを知り、パラスポーツへの興味、関心を高める。</p> <p>2. ボッチャ体験・講座</p> <p>日時：令和3年7月 6日(火) 9:30～11:15・・・① 10月26日(火) 13:40～15:20・・・② 11月30日(火) 9:30～11:15・・・③</p> <p>講師：北澤 和寿さん</p> <p>3回来校していただき、少しずつ交流を深めた。始めはボッチャのやり方を教わり、校内で練習を重ね、最後は北澤選手とゲームをし、対戦するまでになった。</p> <p>(1) 1回目の交流</p> <p>① 講話：パラリンピックの理念 ボッチャの魅力</p> <p>② ボッチャ体験：ルール説明 テクニック紹介 ゲーム</p> 

	<p>(2) 2回目の交流 ボッチャ大会 優勝チームは北澤さんと対戦</p> 
	<p>(3) 3回目の交流 ① 講話：北澤さんの経歴 リハビリ施設で気付いたこと 毎日を精一杯生きましょう いろいろなことに挑戦しよう 質疑応答 ② ボッチャ体験：ゲーム</p> 
6 主な成果	<p>1回目の来校は東京パラリンピック前であったため、活動を通してパラリンピックへの関心を高めることができた。特にボッチャの日本の選手の活躍を家庭でテレビを通してライブで見ることができた。</p> <p>福祉の学習を通して、ボッチャの道具やルールの中にあるユニバーサルデザインに気付き、パラスポーツの魅力に触れると共に、心のユニバーサルデザインについても学ぶことができた。</p> <p>北澤さんとの交流を通して、毎日を精一杯生きることや夢に向かってあきらめずに挑戦することの大切さに気付いた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>ボッチャに関しては、校内にボッチャのコートを作り練習したり、他学年の児童に教える活動をしたりして、1回、2回、3回と回数を重ねることで上達し、次回までの励みとなった。</p> <p>また、障がい者を身近に感じるようになった。(話しかけられるようになった。)</p>
8 主な課題等	<p>予算の関係で1回だけのところもあるだろうが、時間を空けて、せめて2回ぐらい交流させたい。</p> <p>本校は7月、9月、11月と予定していたが、感染症の関係で9月を10月後半に設定するしかなく、10月と11月が近くなってしまったことで、子供たちに課題をもたせる時間が十分に確保できなかったことが残念であった。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>今年度、北澤さんは本校での活動をとても気に入ってくれたため、来年の4年生にこの事業を引き継ぎたい。次年度も2、3回ぐらいは来校できるようにしたい。予算に関することが、一番の課題となる。</p>

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立庄内小学校・庄内中学校】

1 実践テーマ	I · II · <input checked="" type="radio"/> III · IV · <input checked="" type="radio"/> V
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生58名、8年生73名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（　　） ③ その他（　　）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（　　） ② その他（　　）</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・共生教育の理念のもとで、スポーツを通じたインクルーシブな社会の構築を目指す。 ・夢に向かって工夫していくことで、諦めない心や多様な価値観を学ぶと共に、自己肯定感を育てる。
5 取組内容	<p>【オリパラ講座実施日】</p> <p>日時：令和3年11月24日（水）13:45～15:20</p> <p>講師：Xiborg 春田 純さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロンドンパラリンピック大会出場 ・100m走日本代表 <p>(1) 講演「義足のランナー あきらめない心」</p> <p>足を切断する前の様子から、病気になり、足を切断すると決めた時の気持ち、闘病生活、そして陸上を始めるにあたりあきらめずに努力する重要性を語っていただいた。</p>   <p>(2) 切断した足の見学・義足の着脱</p> <p>義足を間近で着脱し、切断した足や外した義足を一人一人に触らせてくださいました。</p> <p>切断した足を見て、言葉が出ない子が多くいたが、切断面がきれいなため握手のようにしっかりと触れる子もいた。</p> <p>足を触り 子供：「温かいね」</p>

	<p>春田さん：「冷たいなあ」 義足を触り 子供：「高そう」 春田さん「めちゃめちゃ高いぞ」 温かな会話が繰り広げられた。</p> <p>(3) 実技指導 場所を運動場に変え、走り方の実技指導と義足ランナーと競争を行った。</p>   <p>子供たち全員が体験できるよう、8人ずつぐらいのグループと、15回も50m走を全力で走っていただきました。しかも最後は8年生の陸上部とも競争していました。体力もすば抜けていた。</p> 
6 主な成果	<p>春田さんは足を切断しても、パラリンピック出場という目標に向かって頑張り、目標を達成した。あきらめなければ必ず夢がかなうことを学んだ。</p> <p>活動を通して、パラリンピックへの関心を高めることができた。また、障がいのある人も健常者以上に活躍することができる事を知った。</p>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<p>講話で話を聞くだけでなく、リアルな学びをお願いし、実際に切断した足や義足に触れ、義足のランナーと一緒に走ることで心に残る体験を行うことができた。</p>
8 主な課題等	<p>こんな機会はないと、小学校4年生、中学2年生とまとめて講演をお願いした。欲張ったことで、ねらいがぼやけてしまった感じがする。1学年だけに絞ったほうが良かった気がする。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>来年度以降も継続して実施できると良い。</p>

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立庄内小学校・庄内中学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童生徒・576名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>①教科名 () ②行事名 () ③その他(オリンピック・パラリンピックコーナーの設置)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>①イベント名 () ②その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックコーナーを図書室に設置し、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高める。
5 取組内容	<p>○図書室の一角に「オリンピック・パラリンピックコーナー」を設置した。</p> <p>○パネル・借用した本を並べ子供たちに東京オリンピック・パラリンピックの興味・関心を高める工夫をした。</p> <p>○多くの児童生徒が手に取り、図書室内で読むことができた。</p>  

6 主な成果	東京オリンピック・パラリンピックに興味をもつことができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	図書室入ってすぐのところにパネル2枚を設置し、視覚的に興味がもてるようにした。
8 主な課題等	本事業の学びを生かし「スポーツを楽しむ」「体育・保健体育の学びに向かう力の涵養」「生きる力の一つである健康・体力の増進」を伸長につなげていくこと。
9 来年度以降の実施予定	2月には冬季オリンピックがあるため、このままオリンピック・パラリンピックコーナーを設置して、本事業を次年度も継続したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立都田中学校】

1 実践テーマ	I · II · <input checked="" type="radio"/> III · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	2年生92名(6名欠席)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(保健体育) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	人種、性別、障害の有無に関わらず、すべての人が幸せの実現に向けて生活できる未来に向けて、「共生社会の実現」をテーマとした講話を、生徒たちが聞いたり本物に触れたりすることで、インクルーシブ社会について理解を深める。
5 取組内容	実施日: 令和3年11月24日(水) 10:30~12:10 パラリンピック、ボッチャ種目の日本代表コーチである常葉大学・櫻井先生と、市内在住のボッチャ選手・北澤様から、ご講話をいただく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャ競技の魅力 ・パラリンピックの感想 ・理想のインクルーシブ社会とは ・障害者の方の思いや願い ・中学生に向けてのメッセージ その後、実際に生徒たちがボッチャを体験して、競技の魅力に触れる。
6 主な成果	ボッチャというスポーツの持つ魅力や特性に触れることができ、一流選手の技を目の当たりにして、感動することができた。 また、目の前で講演をしている北澤選手が、自分たちと同じ中学生だったときの話を聞き、障害を持つ方への理解が深まった。また、インクルーシブ社会の実現に向けての話を、櫻井先生からいただくことができた。以下、生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・北澤選手が経験されたことのお話を聞いて、障害をお持ちの方に対する考え方方が少し変わりました。身近な存在だと思いました。 ・北澤さんの話を聞いて、当たり前の日常が急に無くなってしまう怖さと、乗り越えることの大切さを学ぶことができました。 ・ボッチャはもっとシュールなスポーツだと思っていたが、自然に頭

	<p>を使えたり、コミュニケーションがとれたりする素晴らしいスポーツだと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北澤選手の山なりに投げるというアドバイスをやってみたら上手に投げられました。 ・櫻井先生の「障害の無い人もある人も、お互いに良いところを見つける」という言葉が印象に残りました。 
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>学区内にある常葉大学から協力いただけたことで、様々な準備が円滑に進んだ。</p> <p>地域の中で障害を持つ方を見たり関わったりする機会があまり無い生徒にとって、今回のように身近に触れ合う機会は大きな経験になったと思われる。</p>
8 主な課題等	<p>今回は事前学習として、講師の方を紹介し、質問を考えさせた。しかし、何のために講演会や体験会を行うのかという質問を、生徒たちにも考えさせてすることで、生徒がより必要性を感じられる会にすることにつながったかもしれない。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>保健体育授業の体育理論において、オリンピックやパラリンピックの持つ価値に触れさせ、生徒自身とスポーツとの関わり方を考える機会を作っていく。</p> <p>また、夏季に行われる教職員体育大会でも、小中合同でボッチャを行うことがあるので、また櫻井先生や北澤選手を始めとするCOOLの選手たちとの交流を深めたい。</p>

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立龜玉中学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生徒 約300名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	パネルディスカッション形式の講話を通して、夢をもつこと、夢をかなえるために努力すること、困難にくじけないことの大切さを感じるとともに、自分の将来について皆さん一人一人が考える機会とする。
5 取組内容	<p>日時 令和3年10月14日（木）13:45～14:45 場所 龜玉中学校体育館</p> <p>講師 元柔道選手 松本薰氏 • オリンピック ロンドン大会 金メダル • オリンピック リオデジャネイロ大会 銅メダル</p> <p>演題 「自分を磨く、志をもつ、自他を大切にする」 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> • 事前に全校生徒から寄せられた質問をもとに、代表生徒によるインタビュー形式で進行した。 • 主に「どんな中学生だったか。」「柔道について」「オリンピックについて」「メンタルについて」「龜玉中学校生徒へのメッセージ」の5つのテーマについて講話を受けた。 • 金メダリストとしてのサクセストーリーだけでなく、失敗談を話していただいたり、本校の生徒の質問に対して共感的に答えたりして、とても温かい会となった。 

	
6 主な成果	<p>生徒に向けて「失敗してチャレンジしないこと、勇気を出せなくなることをおそれてはいけない。失敗は勇気につなげる。楽しんでチャレンジする。」というメッセージをいただいた。</p> <p>生徒にとって、これから「自分を磨く、志をもつ、自他を大切にする」ことにつながった。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>事前に全校生徒からの質問を集約したことにより、どの生徒も主体的に講話に参加できた。</p> <p>代表生徒が同じ舞台に立ち、インタビューしたことにより、講師に対して親近感がわき、アットホームな雰囲気で進行することができた。</p>
8 主な課題等	新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言があり、リモートを含めた代替案について考える必要があった。
9 来年度以降の実施予定	来年度も、オリンピック選手による講話を実施したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

学校名【浜松市立龜玉中学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生徒 約300名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名() ② 行事名() ③ その他(図書室に本の設置) (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	オリンピックについて、選手のことだけでなく、大会の意義や価値についての関心を高める
5 取組内容	図書室にある蔵書と合わせて、図書室の一区画にまとめて配架した。 
6 主な成果	配架した6月から生徒の関心が高く、本を手に取って読む生徒が多くかった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	「オリンピックの歴史・理念」が書かれたパネルを貸与していただいたため、雰囲気作りができた。
8 主な課題等	特にありません。
9 来年度以降の実施予定	継続して実施していきたい。

〈教育推進事業〉

2. 地域報告会・講演会

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的・多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

事業名【市民フォーラム・パラアスリートトークショー】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)
2 実施対象者 (学年・人数)	会場参加 144名、リモート参加45名(視聴人数) [申込者数 会場 182名 リモート参加 83名] スタッフ29名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（市民フォーラム・パラアスリートトーク ショー） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	パラスポーツに関心を持っていただき、障がいのあるなしだけでなく、共生社会への実現、そのきっかけとなることを期待した。 また、2020東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとなることを目的とした。
5 取組内容	<p>開催日：令和3年11月13日（土） 会場： 静岡文化芸術大講堂</p> <p>[プログラム]</p> <p>14:00～15:30 HEROS-夢を叶える原動力 パラアスリートトークショー</p> <p>○パラ水泳 鈴木孝幸選手 (東京2020大会 全5種目メダル獲得)</p> <p>○車いすラグビー 池崎大輔選手(東京2020大会 銅メダル)</p> <p>○5人制サッカー 田中章仁選手(5位入賞)</p> <p>[絵画と作文展]</p> <p>12:30～16:00 静岡文化芸術大 講堂ホール</p> <p>本事業は、浜松市もしくは静岡県にゆかりのあるパラリンピアンを招聘し、浜松市内の児童・生徒および一般の方々にも広く参加していただく講演会を行った。</p> <p>東京2020大会を振り返り、車いすラグビーの池崎選手、ブラインドサッカー田中選手は、今後もパラスポーツの熱を日本で広げて</p> 

	<p>いくこと、実施できる環境を残すこと、継続してパラスポーツを応援して欲しいと語った。</p> <p>会場やリモート観覧者からも「自分を奮い立たせる言葉」や「大会前のリラックス方法」など多くの質問があり、ユーモアあふれる3選手の応答に会場は終始笑いが絶えず、和やかなトークショーとなった。</p> <p>終盤、コンタクトスポーツとしての車いすラグビーを来場者にも体感してもらうため、池崎選手が大会で使用している「ラグ車」で希望者と対戦した。</p> <p>ある小学生が池崎選手に果敢に立ち向かうと、会場内からは大きな拍手が贈られた。</p>  
6 主な成果	<p>地域にゆかりの東京2020大会に出場した3選手に接することで、パラスポーツをより身近に感じていただくことができたと感じている。事前に募集したオリンピック・パラリンピックの絵画と作文展を同時に開催したことが、ターゲットの親子連れが多く参加してくれたことに繋がったと考える。</p> <p>会場の子どもたちから多くの質問があったことは、その関心の高さを表し、初期の目的は十分達成できたものと考えている。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	コロナ禍での開催のため、会場での観覧者を制限し、YouTube配信によるリモート観覧など、オンラインを活用できるだけ多くの方が参加できるように工夫した。
8 主な課題等	特になし
9 来年度以降の実施予定	本年度でスポーツ庁の助成が終了のため、予定なし。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【浜松市】

事業名【絵画と作文展 in イオンモール浜松志都呂】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · (V)
2 実施対象者 (学年・人数)	浜松市内の小・中学生および一般市民 (出展協力教育推進校 15校 133点)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 (絵画と作文展) ② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	レガシー創出を目的とし、小学生・中学生を対象に絵画または作文を募集し、オリンピック・パラリンピックを通じて学び体験したなかで、児童・生徒が感じたこと、またコロナ禍におけるオリンピック・パラリンピック開催について考えたことなどを作品にして伝える。
5 取組内容	<p>1. 提出期間 令和3年9月6日(月) から令和3年10月22日(金) まで</p> <p>2. 募集範囲 令和元年度～令和3年度 浜松市内オリパラ教育推進校 32校の児童・生徒 ※絵画・作文募集点数は、小学校各6点、中学校各3点まで</p> <p>3. テーマ(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京2020オリンピック・パラリンピックに関連した感動の名場面 ・本事業を通してふれ合った選手やスタッフなどとの思い出の場面 ・本事業を通して心に残ったスポーツや選手の頑張りから学んだこと・場面 ・コロナ禍でのオリンピック・パラリンピック開催で感じたこと等々

	<p>4.展示状況</p> <p>(1)期間 令和3年11月19日(金)～11月30日(火)</p> <p>(2)会場 イオンモール浜松志都呂 専門店街 2F 3F</p> <p>(3)参加校</p> <p>[小学校] (浜松市立) 相生小学校、井伊谷小学校、引佐 北部小学校、伊目小学校、入野小学校、奥山小学校、蒲小 学校、可美小学校、佐鳴台小学校、城北小学校、庄内小学 校、富塚小学校、西小学校、雄踏小学校</p> <p>[中学校] (浜松市立) 富塚中学校</p> 
6 主な成果	浜松市内のショッピングモールで展示できることで多くの方に見ていただくことができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	コロナ禍でのオリンピック・パラリンピック開催となったこの機会に本事業を実施したことは、児童が書いた作文の内容からも改めてスポーツの価値や意義を考える機会になった。
8 主な課題等	特になし
9 来年度以降の実施予定	特になし

オリパラ浜松市内大学連携協議会 構成員

会長	小柳 好生	常葉大学健康プロデュース学部 教授
副会長	大野木 龍太郎	浜松学院大学現代コミュニケーション学部 教授
会員	木村 佐枝子	常葉大学健康プロデュース学部 教授
	荻原 慎介	浜松学院大学経営企画室 室長
	吉本 好延	聖隸クリストファー大学リハビリテーション学部 教授
	飯田 妙子	聖隸クリストファー大学リハビリテーション学部 助教
	長井 亨悟	浜松医科大学総務課 課長
	大隅 孝文	浜松医科大学総務課 広報室長
	小濱 朋子	静岡文化芸術大学 デザイン学部 教授
	宮野 哲	静岡文化芸術大学 地域連携室 室長
事務局	藤森 康朗	常葉大学浜松キャンパス事務局長
	須山 嘉七郎	常葉大学浜松地域貢献課 顧問
	松岡 孝江	常葉大学浜松地域貢献課 課長
	金原 克征	常葉大学浜松地域貢献課
	横原 佑太	浜松学院大学学務グループ兼経営企画室 主事
	森山 知恵子	浜松学院大学学務グループ兼総務・企画グループ (IT 担当)
	森 奏	浜松学院大学入試・広報グループ兼経営企画室 主事
	辻村 拓哉	聖隸クリストファー大学総務部IR室 スタッフリーダー
	金原 明弘	浜松医科大学総務課
	岡田 佳久	静岡文化芸術大学 地域連携室 主幹
オブザーバー	島田 一孝	浜松市教育委員会指導課 副参事
	角屋 裕子	浜松市教育委員会指導課 副参事・課長補佐
	澤田 吉延	浜松市スポーツ振興課 スポーツコミュニケーション推進担当課長
	村田 弘貴	浜松市スポーツ振興課 主任

◆教育実践協力者・企業・団体一覧 (敬称略)

イオンモール浜松志都呂(絵画と作文の展示)
 SMILEY ANGEL 杏林堂薬局 (陸上競技)
 静岡ブルーレヴズ (旧ヤマハ発動機ジュビロ) (ラクビー).
 スズキアスリートクラブ (陸上競技)
 (株)TOMO RUN (陸上競技)
 浜松ボッチャ俱楽部COOL (ボッチャ) 北澤和寿 北澤友一
 橋本エンジニアリング(株) (競技用車イス製造)
 FC コレチーボ静岡 (5人制サッカー)
 ペアトレ リズム Lab.(体幹トレーニング) DAIKI VANY
 Risa 中澤里彩 (ダンス)
 佐々木雅啓 (車いすバスケットボール)
 松本 薫 (柔道) ベネシード(株) 2012 ロンドンオリンピック金メダル
 宮城辰郎 (陸上競技・短距離) 日星電気(株)陸上競技部
 高林遼哉 (陸上競技・長距離)
 伊藤 裕子 (障害児水泳) ペンギン村水泳教室、メディカルフィットネスクラブ LEN 代表
 宮本アイラ (ポルトガル語通訳) こまたす推進プロジェクト
 根木 慎志 (車いすバスケットボール) 2000 シドニーパラリンピック出場ほか
 春田 純 (陸上競技) 2012 ロンドンパラリンピック出場ほか
 水谷 万記子 (卓球) 卓球指導者
 杉本 龍勇 (陸上競技) 法政大学経済学部教授、1992 バルセロナオリンピック出場
 池崎 大輔 (車イスラグビー) 2020 東京パラリンピック銅メダルほか
 田中 章仁 (5人制サッカー) 2020 東京パラリンピック出場
 鈴木 孝幸 (水泳) 2020 東京パラリンピック金メダルほか
 蒼原 滋男 (5人制サッカー・陸上競技・自転車競技) 2000 シドニーパラリンピック金メダル(自転車競技)ほか
 櫻井 博紀 (ボッチャ) 常葉大学 保健医療学部准教授 ボッチャ日本代表コーチ
 土屋 和男 (環境教育) 常葉大学造形学部教授
 神力 亮太 (5人制サッカー) 常葉大学健康プロデュース学部助教
 松澤 俊行 (ボッチャ) 浜松学院大短期大学部准教授

浜松市ムーブメント事業
地域報告会・ワークショップ
事業実施報告書